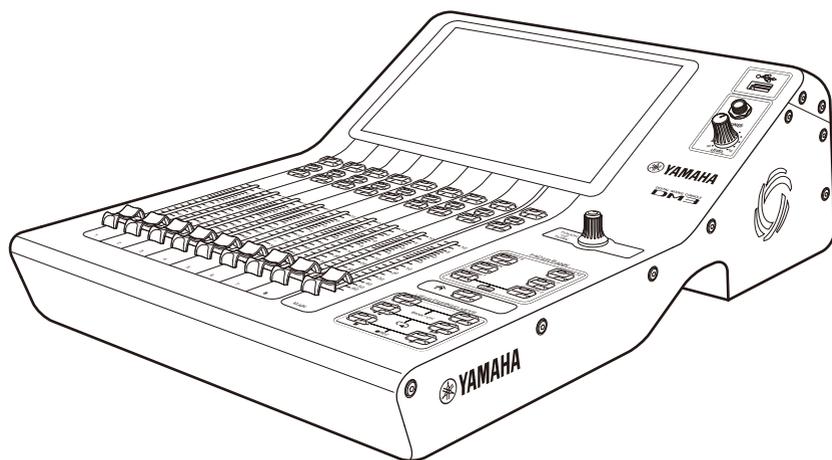




デジタルミキシングコンソール

DM3 DM3 STANDARD (DM3S)



DM3 StageMix ユーザーガイド

JA

目次

はじめに 4

DM3 StageMixについて 4

ソフトウェアの動作環境 5

お知らせ 6

 ご注意 6

 商標 7

準備 8

DM3シリーズとiPadの接続方法 8

DM3シリーズのネットワーク設定 10

Wi-Fiアクセスポイントの設定 11

iPadのWi-Fi設定 12

 DHCPを使う場合 12

 固定IPアドレスを使う場合 13

DM3 StageMixの設定 14

各部の名称と機能 16

HOME画面 16

ONLINEボタン 17

SELECT MIXER画面 18

METERエリア 22

UTILITY画面 23

 UTILITY画面について 23

 MUTE Group Control 24

 CUSTOM FADER画面 25

 USER DEFINED BUTTONS画面 27

 RECORDER画面 30

 PREFERENCE画面 34

 ABOUT (Version) 画面 41

 ABOUT (License) 画面 42

詳細表示エリア	43
詳細表示エリアについて	43
Processingエリア	44
Faderエリア	47
CH Nameエリア	49
概要ストリップエリア	50
メニュー	51
メニューについて	51
HOME画面のメニュー	53
SCENE	54
SCENEエリア	54
SCENE画面	55
チャンネル専用画面	57
TOOLBARエリアについて	57
INPUT画面	58
INPUT CH PATCH画面	63
EQ画面	65
DYN1画面	69
DYN2画面	72
SEND TO画面	75
GEQ画面	77
DELAY画面	79
INSERT画面	81
FX画面	83
EFFECT TYPE画面	85
CH NAME画面	86
SENDS ON FADER画面	88
付録	92
<hr/>	
パラメーター	92
USER DEFINED BUTTONSに割り当てできる機能	92
資料	94
困ったときは	94
チャンネルネームに使用できる言語	96

はじめに

DM3 StageMixについて

DM3 StageMixは、DM3シリーズをワイヤレスコントロールするiPadアプリケーションです。

DM3 StageMixを使用すれば、ミキシングエンジニアはステージ上で演奏者のポジションなど、DM3シリーズから離れたところで直接ミキシングパラメーターを操作できるようになります。iPadならではのシンプルかつ直感的な操作性によってセットアップの時間が短縮され、DM3シリーズのライブサウンドセッティングがさらに快適なものとなります。

ソフトウェアの動作環境

DM3 StageMixの動作環境について説明します。

- iPad 第5世代以降、iPad mini 第2世代以降、iPad Air、iPad Pro
- 対応iOS： iOS 12、iPadOS 13以降
- ヤマハ デジタルミキシングコンソール DM3シリーズ V1.0 以降
- Wi-Fi アクセスポイント

お知らせ

DM3 StageMixをインストールしたiPadとDM3 Editorをインストールしたコンピューターは、合計3台まで同時に接続できます。ただし、DM3 Editorをインストールしたコンピューターはそのうち1台までです。

お知らせ

ご注意

- このソフトウェアおよび取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

商標

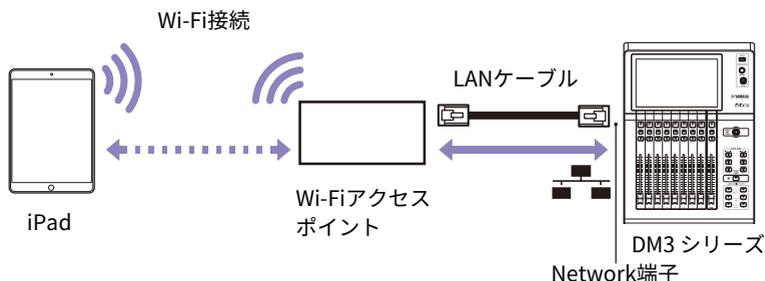
- Apple、Appleロゴ、およびiPadは、米国および他国のApple Inc.の登録商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

準備

DM3シリーズとiPadの接続方法

DM3シリーズとiPadを専用のネットワークで接続する方法について説明します。

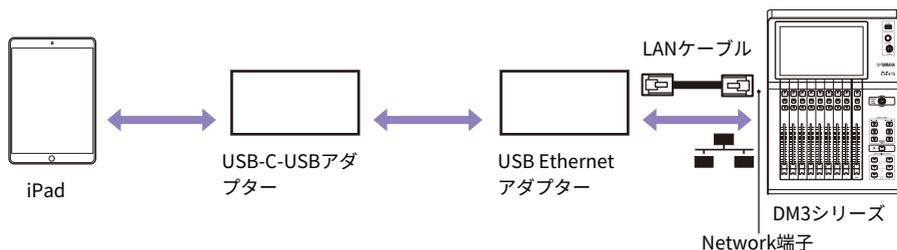
無線での接続



お知らせ

- AUTO-MDIX機能のない古いWi-Fiアクセスポイントに接続するときは、クロスケーブルが必要になります。最近の機器の多くはAUTO-MDIX機能をサポートしていますので、その場合はストレートケーブル、クロスケーブルいずれも使用できます。
- LANケーブルがWi-FiアクセスポイントのLANポートに接続されていることを確認してください。WANポートには接続しないでください。

有線での接続



お知らせ

- 有線で接続する場合は、USB-C-USBアダプター（またはLightning-USB 3カメラアダプター）とUSB Ethernetアダプターが別途必要です。Lightning-USB 3カメラアダプターを使用する場合は、Lightning-USB 3カメラアダプターへの電源供給が必要です。
- 有線接続と無線接続の切り替えはオフライン状態で行ってください。
- 有線接続と無線接続の両方が接続されている場合は、自動判別により有線接続が優先されます。

DM3シリーズのネットワーク設定

DM3シリーズのネットワーク設定は、DHCPによる自動設定と手動による設定ができます。手動で設定して接続する場合や既存のネットワークに共存させて接続する場合は、接続するLANに合わせて設定してください。詳しくはLANの管理者にご相談ください。

DM3シリーズのネットワーク設定

DM3シリーズのネットワーク設定は、SETUP画面→NETWORK（For Mixer Control）画面で設定します。

- IP Address :
他のネットワーク機器のアドレスと重複しないように設定してください。
- Subnet Mask :
DM3シリーズ本体を接続するサブネットのサブネットマスクを設定してください。
- Gateway :
ゲートウェイが存在する場合はゲートウェイのIPアドレスを設定してください。ゲートウェイが存在しない場合は空いているIPアドレスに設定してください。サブネットが設定されているLANでは、IPアドレスと同じサブネット内に設定する必要があります。
- Unit Name :
ネットワーク内で表示する名前を設定してください。

Wi-Fiアクセスポイントの設定

各機器の取扱説明書に従って、Wi-Fiアクセスポイントを設定してください。特別な設定は必要ありませんが、外部からネットワークへの侵入を防ぐためにWPAのようなセキュリティをかけていただくことをおすすめします。

以下の設定を参考にしてください。

- 1 Wi-Fiネットワーク上で名前を設定します（これが「SSID」となります）。**
- 2 セキュリティモード（例：WPA）とパスワードを設定します。**
- 3 ワイヤレスモード、ワイヤレスバンドを選択します（例：802.11n 2.4GHz）。**
- 4 可能であれば「Auto Channel Selection」を有効にします。**
干渉が最小限におさえられたワイヤレスチャンネルが選択されます。

お知らせ

外部アンテナを複数使用すると、iPadとWi-Fiアクセスポイント間をより高速で通信しやすくなります。

iPadのWi-Fi設定

DHCPを使う場合

DHCP（ダイナミック・ホスト・コンフィギュレーション・プロトコル）とは、サーバーが機器にIPアドレスを自動的に割り当てるネットワークプロトコルのことです。以下の手順に従って、DHCPを使ったiPadの設定を行ってください。

- 1** iPadで設定メニューを開きます。
- 2** Wi-Fiを選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3** 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークをタップして、IPアドレスを編集するための画面を表示させます。
- 4** [IPを構成]→[自動]を選択して、iPadがIP Address（IPアドレス）、Subnet Mask（サブネットマスク）、Router（ルーター）、DNSのデータを受信したことを確認します。
- 5** データが反映されない場合は、[リースを更新]を選択します。
- 6** 設定が完了したら、[設定]メニューを終了します。

お知らせ

- AUTO(18ページ)で接続する場合、IPアドレスについては、DM3シリーズと同じサブネットが設定されているかを確認してください。
- 上記の手順5.を行ってもDHCPの設定が適用されない場合は、お使いのDHCPサーバーの設定を確認してください。または、固定IPアドレスを使ってiPadの設定を行ってください。

固定IPアドレスを使う場合

以下の手順に従って、固定IPアドレスを使ったiPadの設定を行ってください。

- 1** iPadで設定メニューを開きます。
- 2** Wi-Fiを選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3** 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークを押し、IPアドレスを編集するための画面を表示させます。
- 4** [IPを構成]→[手動]を選択します。
- 5** IPアドレスを設定します。
AUTO（18ページ）で接続する場合は、DM3シリーズのIPアドレスの第4 オクテットのみを変えたIPアドレスを入力します。
（例：DM3シリーズのIPアドレスが「192.168.0.128」の場合、iPadには「192.168.0.127」のように入力します。）
- 6** Subnet Mask（サブネットマスク）：「255.255.255.0」を入力します。
- 7** Router（ルーター）：Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。
通常、Wi-Fiアクセスポイントの底面または取扱説明書に印刷されています。
- 8** DNS：Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。（手順7.と同様）
- 9** 設定が完了したら、[設定]メニューを終了します。

DM3 StageMixの設定

以下の手順に従って、iPadの設定を行ってください。
DM3 StageMixを起動します。



SELECT MIXER画面が表示されます。



この画面では以下のようなことができます。

- ・ オフラインデモモードに入り、DM3 StageMixの機能やユーザーインターフェースを試すことができます。
- ・ ネットワーク内にあるDM3シリーズを選択し、DM3 StageMixを開始します。

オフラインデモモード

SELECT MIXER画面でOFFLINEボタンを押すことで、DM3シリーズとDM3 StageMixが接続されていない（オフライン）状態でも、アプリケーションの使い方を確認できます。ただし、このモードではレベルメーターや多くのシーンメモリー機能は動作しません。

ミキサーの選択と動作の開始

接続先のDM3シリーズを自動検出するか、IP Addressを手動で設定するかを選ぶことができます。詳細は、SELECT MIXER画面をご参照ください。

リストからミキサーを選択してCONNECTボタンを押します。

DM3 StageMixがDM3シリーズと接続できない場合は、このユーザーガイドの巻末にある「困ったときは」をご参照ください。

お知らせ

- ワイヤレス接続のほかに有線LANでも接続できます。有線で接続する場合は、USB-C-USBアダプター（またはLightning-USB 3カメラアダプター）とUSB Ethernetアダプターが別途必要です。
- 有線接続と無線接続の両方が接続されている場合は、自動判別により有線接続が優先されます。
- はじめてDM3シリーズと接続するとき、接続を許可するかどうかの確認ダイアログが表示されます。「許可しない」をタップすると、それ以降接続できなくなります。接続を許可したい場合は、iOSの設定 → StageMix画面でLocal Networkをオンにしてください。

関連リンク

- 「SELECT MIXER画面」（18ページ）
- 「困ったときは」（94ページ）

各部の名称と機能

HOME画面

DM3 StageMixのメイン画面です。起動時はこの画面が表示されます。
TOOLBARエリアにあるHOMEボタンをタップしたときも、この画面に戻ります。



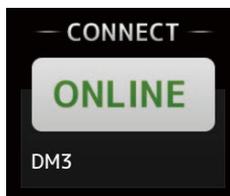
- ① ONLINEボタン (17ページ)
- ② UTILITYボタン (23ページ)
- ③ METERエリア (22ページ)
- ④ 詳細表示エリア (43ページ)
- ⑤ 概要ストリップエリア (50ページ)
- ⑥ SCENEエリア (54ページ)
- ⑦ TOOLBARエリア (57ページ)
- ⑧ メニューボタン (51ページ)

ONLINEボタン

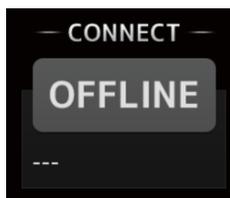
ONLINEボタンで、オンラインとオフラインを切り替えます。

ONLINEボタンをタップすると、SELECT MIXER画面が表示されます。

オンラインのときは、ボタンの下に接続されているDM3シリーズのUNIT NAMEが表示されます。



オフラインのときは、OFFLINEと表示されます。

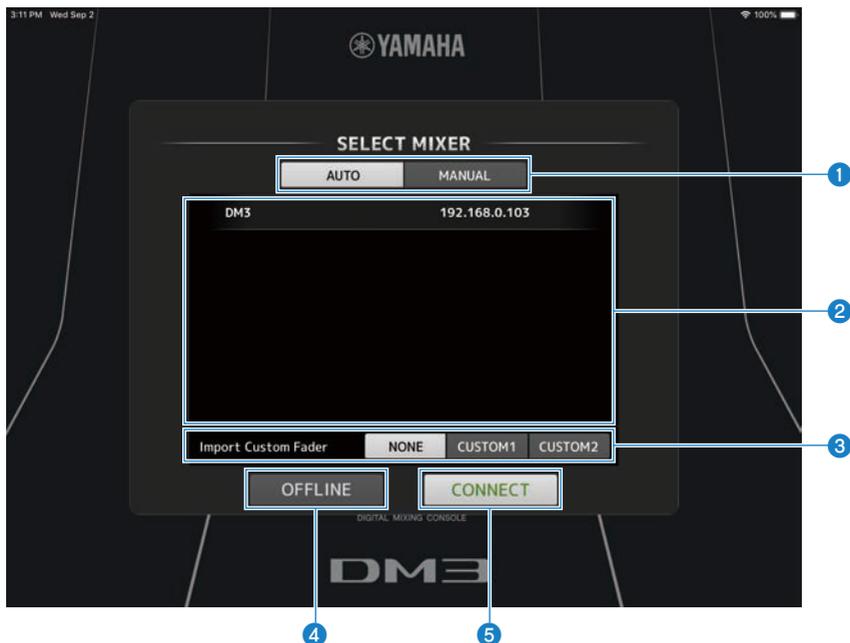


関連リンク

[「SELECT MIXER画面」](#) (18ページ)

SELECT MIXER画面

SELECT MIXER画面は、オンラインとオフラインを切り替えます。



1 AUTO/MANUAL切り替えボタン

接続先のDM3シリーズを自動検出するか、IP Addressを手動で設定するかを切り替えます。

- AUTO :
自動で検出します。
- MANUAL :
IP Addressを手動で設定します。

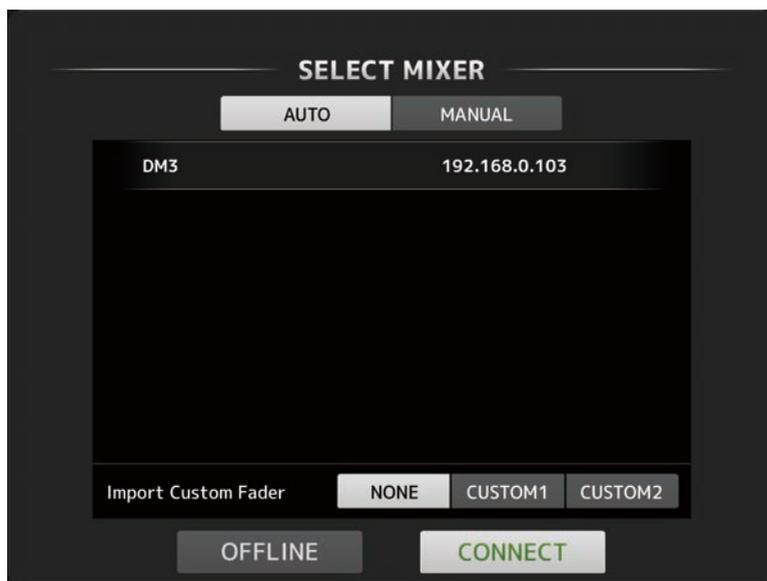
② デバイスリスト

接続先のDM3シリーズを選択します。

接続先のDM3シリーズをタップするとハイライト表示になります。

既にオンラインのDM3シリーズの場合、Onlineと表示されます。

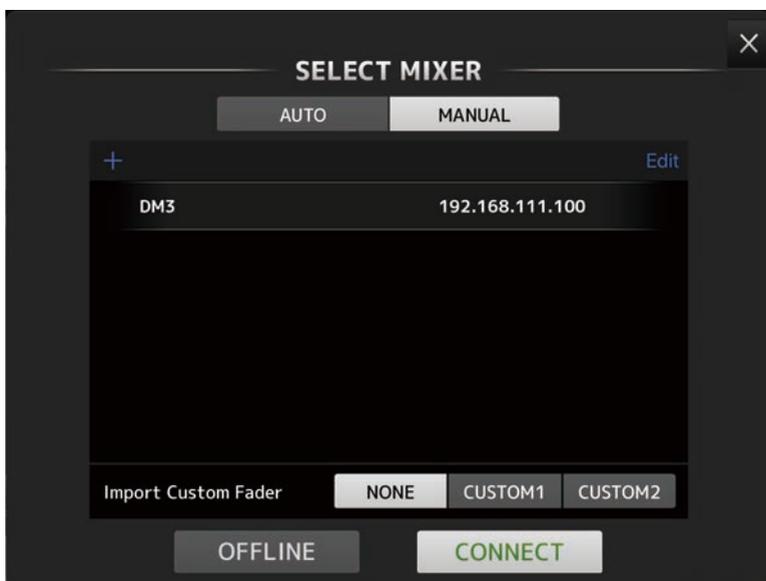
■AUTOを選択した場合



ネットワーク上に見つかったDM3シリーズのUnit NameとIP Addressがリストに表示されま
す。

DM3シリーズに接続されているDM3 EditorやDM3 StageMixがすでに最大数（合計3台）に達し
ている場合は、IP Addressの左横に禁止マークが表示されます。

■MANUALを選択した場合



リストに登録したDM3シリーズのUnit NameとIP Addressが表示されます。

各部の名称と機能 > SELECT MIXER画面

左上の+ボタンをタップしてAdd Mixer画面を表示し、接続先のDM3シリーズのUnit NameとIP Addressをリストに登録します。

Unicast Level Meterをオンにすると、DM3シリーズが異なるサブネット上にあってもレベルメーター情報を表示できます。



お知らせ

- Unit Nameは空でもリストに登録できます。
- Unit NameはDM3シリーズ本体の設定と一致している必要はありません。
- リストの項目を削除するには、リストを左にスワイプしてDeleteボタンを表示します。

③ Import Custom Faderボタン

オンラインにするとときにDM3シリーズ本体のCUSTOM FADER BANKの設定を読み込むかどうかを選択します。NONE、CUSTOM1、CUSTOM2から選択します。

④ OFFLINEボタン

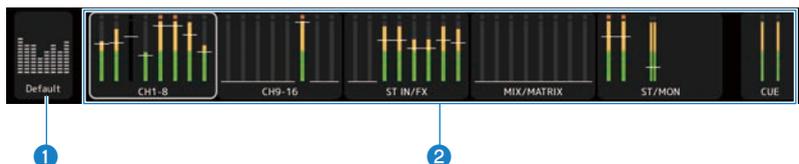
タップすると、オフラインデモモードに切り替わります。
DM3 StageMixとDM3シリーズが接続されているときは切断されます。

⑤ CONNECTボタン

タップすると、デバイスリストで選択したDM3シリーズと接続します。

METERエリア

METERエリアは、インプットレベル、アウトプットレベル、フェーダーレベルのほか、SENDS ON FADERモードのときはセンドレベルを一覧表示します。



① Default/Custom切り替えボタン

METERエリアと詳細表示エリアに表示する内容を切り替えます。

Defaultは、インプットとアウトプットの全てのチャンネルが表示されます。

Customは、CUSTOM FADER BANK画面で選択したチャンネルが表示されます。

② METER表示

①でDefaultを選択した場合、すべてのインプットとアウトプットメーターを表示します。メーターの下部には、メーターのブロックにあるチャンネル名がブロックごとに表示されています。

①でCustomを選択した場合、CUSTOM FADER BANK画面で選択したチャンネルのメータが表示されます。メータの下部には、各ブロックの先頭のチャンネル名が表示されます。ただし、先頭のチャンネルがブランクになっているときは、何も表示されません。

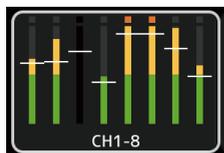
レベルメーターの表示色は、-18dB ままでが緑色、0dB ままでが黄色、それ以上がオレンジ色です。

メーターポイントはUTILITY画面で設定します。

ただし、MONITOR チャンネルのメーターポイントは常にプリフェーダー（フェーダーの直前）です。

各チャンネルのフェーダーレベルが白線で表示されます。ノミナル（0dB）のときは、太い白線になります。

チャンネルがオフの場合は、メーターの背景が黒色になり、メーター自体も灰色で表示されます。



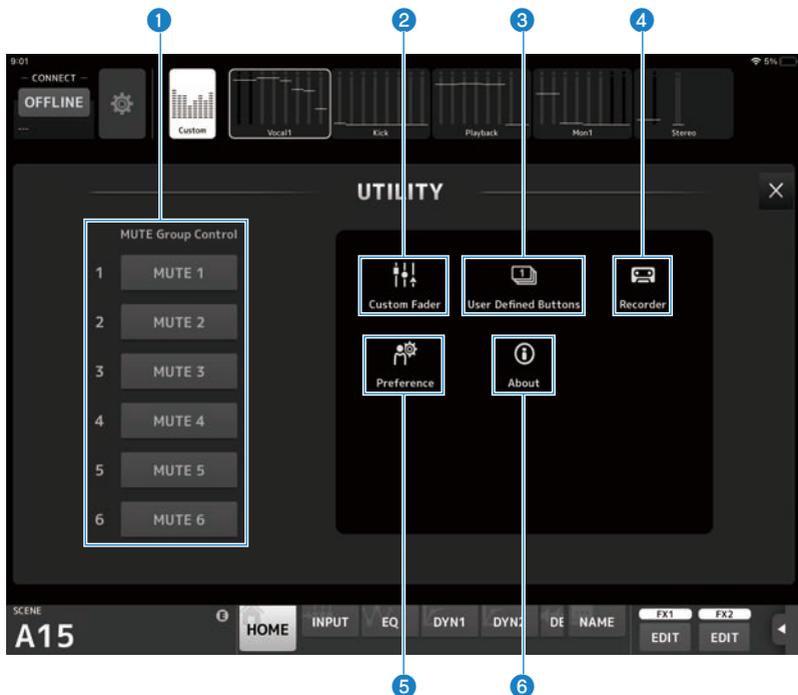
詳細表示エリアに表示されているチャンネルが、白枠で囲まれて表示されます。この白枠を左右にドラッグして、詳細表示エリアに表示するチャンネルを切り替えることができます。

SENDS ON FADERモードのときは、各チャンネルのセンドレベルが表示されます。このとき、フェーダーレベルを示す線は、送り先のチャンネルカラーで表示されます。

UTILITY画面

UTILITY画面について

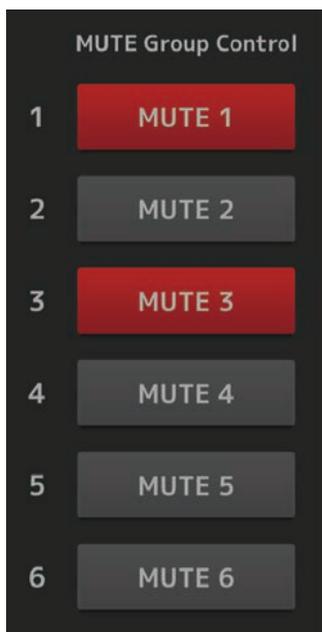
UTILITY画面には、DM3シリーズやDM3 StageMixを操作する便利な機能があります。



- ① MUTE Group Controlボタン (24ページ)
- ② Custom Faderボタン (25ページ)
- ③ User Defined Buttonsボタン (27ページ)
- ④ Recorderボタン (30ページ)
- ⑤ Preferenceボタン (34ページ)
- ⑥ Aboutボタン (41ページ)

MUTE Group Control

MUTE Group Controlは、各ミュートグループにアサインされたチャンネルを一括でミュートします。オンのときは赤色で点灯します。ミュートグループに割り当てるチャンネルの設定はDM3シリーズで行います。



CUSTOM FADER画面

CUSTOM FADER画面では、CUSTOM FADER BANKのチャンネルの並びを設定します。CUSTOM FADER BANKは、必要なチャンネルをDM3 StageMixに並べて操作できるフェーダーバンクです。



① チャンネルボタン

②で選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。

すでに選択されているチャンネルをタップすると、割り当てを解除します。Noneを選択すると、割り当てなしになります。

② フェーダーボタン

チャンネルを割り当てるフェーダーを選択します。

CUSTOM FADER BANK画面のメニュー

CUSTOM FADER BANK画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

・ Import :

DM3シリーズのCUSTOM FADER BANKの設定を読み込みます。CUSTOM1、CUSTOM2から選択します。

STEREOチャンネルは片側のチャンネルだけ読み込まれます。

・ Clear All :

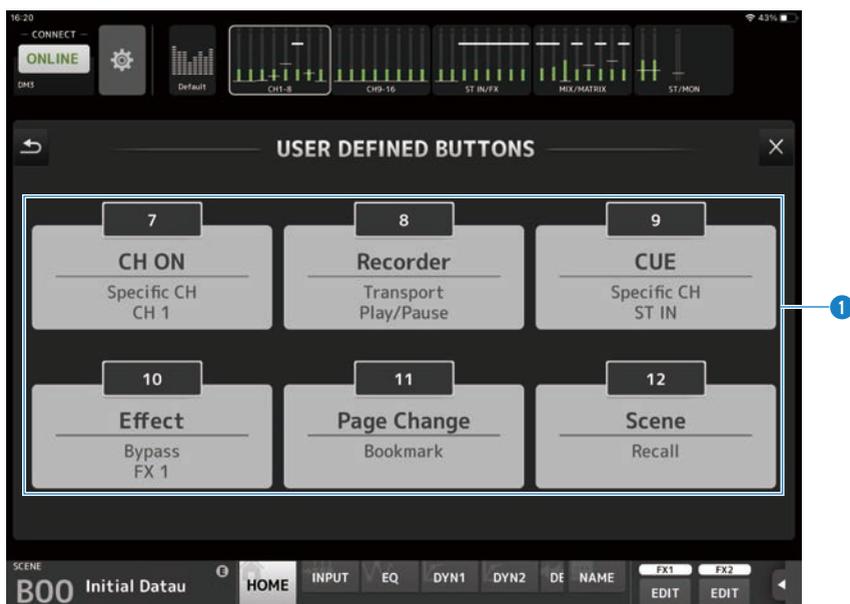
フェーダーに対するすべての割り当てを、一括で解除 (Noneに設定) します。

各部の名称と機能 > UTILITY画面

- Default :
フェーダーに対する割り当てを初期設定に戻します。
- Load :
DM3 StageMixに保存したCUSTOM FADERの設定を読み込みます。タップするとLOAD画面が表示されます。
- Save :
現在のCUSTOM FADERの設定をDM3 StageMixに保存します。タップするとSAVE画面が表示されます。

USER DEFINED BUTTONS画面

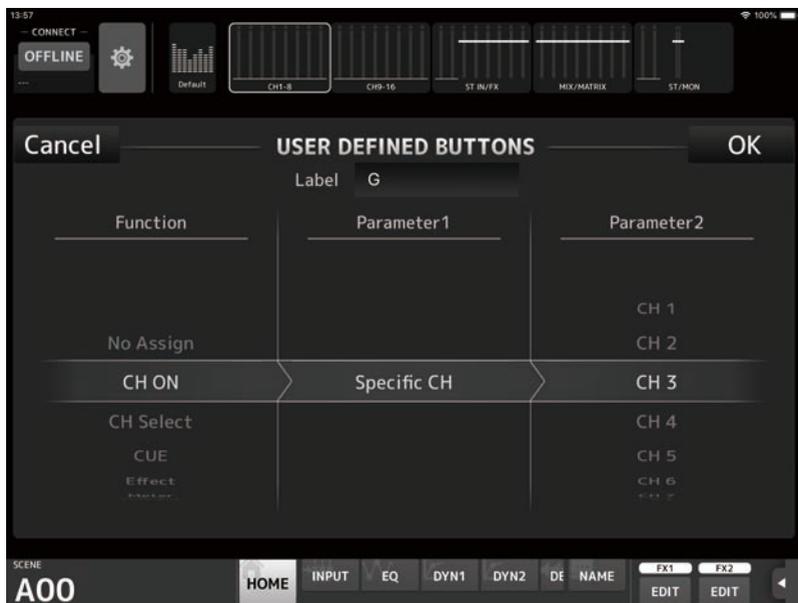
USER DEFINED BUTTONS画面では、DM3 StageMixのUser Defined Buttonsを設定します。



1 BUTTONS設定ボタン

タップすると、USER DEFINED BUTTONSに割り当てる機能を選択する画面（機能選択画面）を表示します。

機能選択画面



Label設定テキストボックスをタップすると、ラベル名をキーボードで直接入力できます。6文字まで入力できます。空欄にすることもできます。

Functionの機能を選択すると、Parameter1の選択候補を表示し、Parameter1の機能を選択すると、Parameter2の選択候補を表示します。選択した機能に続く機能の選択候補がない場合は、Parameter1またはParameter2の選択候補を表示しません。

お知らせ

- DM3シリーズの[USER DEFINED KEYS]とこのUSER DEFINED BUTTONSには、それぞれ別の機能を割り当てられます。
- USER DEFINED BUTTONSに割り当てた機能は、メニューボタンで実行できます。

USER DEFINED BUTTONS画面のメニュー

USER DEFINED BUTTONS画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

- Load :
DM3 StageMixに保存したUSER DEFINED BUTTONSの設定を読み込みます。
- Save :
現在のUSER DEFINED BUTTONSの設定をDM3 StageMixに保存します。

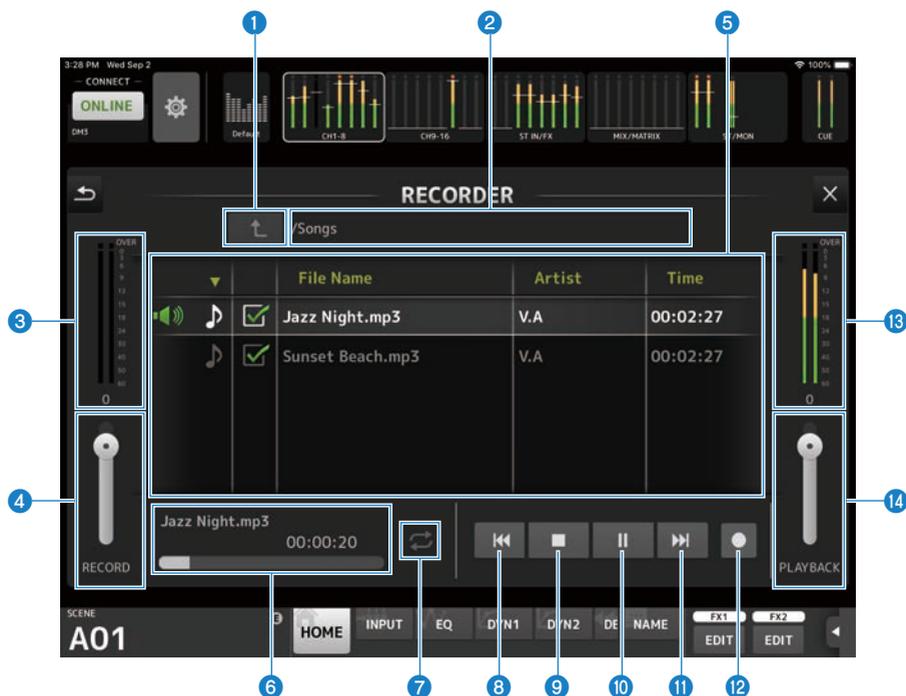
各部の名称と機能 > UTILITY画面

関連リンク

「USER DEFINED BUTTONSに割り当てできる機能」 (92ページ)

RECORDER画面

RECORDER画面では、DM3シリーズのRecorderを操作します。



- 1 ディレクトリー移動ボタン**
カレントディレクトリーを1階層上に移動します。
- 2 カレントディレクトリー情報**
USBストレージデバイスのカレントディレクトリーのパスを表示します。
- 3 録音レベルメーター**
録音レベルを表示します。
- 4 録音レベルスライダー**
録音レベルを設定します。

5 曲名リスト

カレントディレクトリー内の曲ファイルとサブディレクトリーを表示します。

サブディレクトリーをタップすると、ディレクトリーを移動できます。

リストの項目名をタップすると、タップした項目の内容でソートします。

曲ファイル名をタップすると選択できます。

選択している曲のチェックボックス以外をタップすると、再生/一時停止をします。

チェックボックスをタップしてチェックすると、全曲再生時、再生の対象のファイルになります。

File Name欄にはファイル名を表示します。

Artist欄にはアーティスト情報が（MP3ファイルのみ）、Time欄には曲の長さを表示します。

6 曲ファイル情報表示インジケータ

MP3ファイルの再生中は、ファイル名と再生位置を表示します。

WAVファイルの再生中は、ファイル名と再生位置を表示します。

録音中は、WAVファイルのファイル名と録音経過時間を表示します。

再生中はノブが表示され、再生位置を変更できます。

7 プレイモード設定ボタン

ループ再生機能を設定します。

タップするたびに、機能が切り替わります。



1曲を1度再生します (SINGLE)。



1曲を繰り返し再生します (SINGLE REPEAT)。



曲名リストでチェックがオンになっている全曲を1度再生します (ALL)。



曲名リストでチェックがオンになっている全曲を繰り返し再生します (ALL REPEAT)。

8 PREVIOUSボタン

タップすると、曲の先頭または前曲の先頭に再生位置を移動します。

再生中にPREVIOUSボタンを長押しすると、巻き戻しできます。

9 停止ボタン

録音/再生を停止します。

10 再生/一時停止ボタン

曲の再生/一時停止をします。

11 NEXTボタン

次曲の先頭に再生位置を移動します。

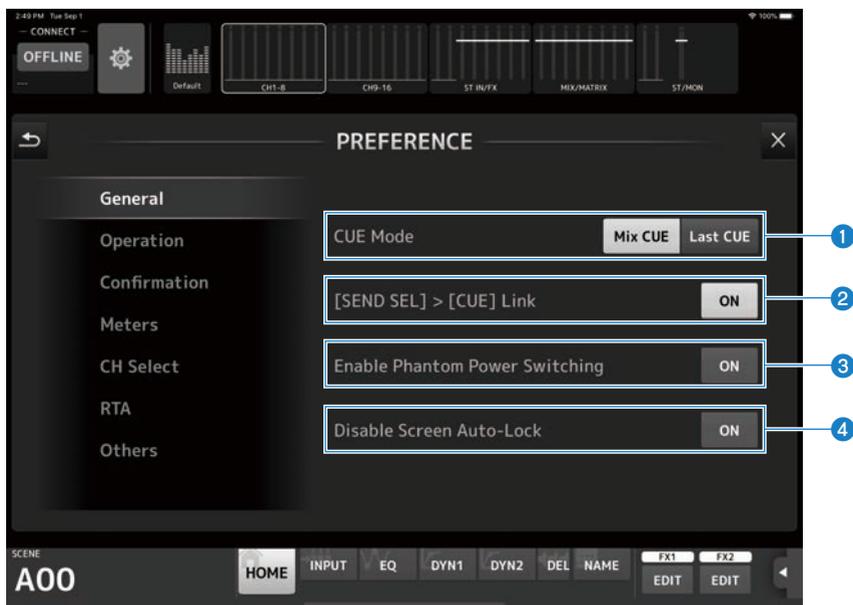
再生中にNEXTボタンを長押しすると、早送りできます。

- ⑫ **録音ボタン**
録音待機状態にします。
- ⑬ **再生レベルメーター**
再生レベルを表示します。
- ⑭ **再生レベルスライダー**
再生レベルを設定します。

PREFERENCE画面

PREFERENCE画面では、操作環境に関する設定を、ユーザーの好みに合わせて設定します。

■GENERAL



① CUE Mode

CUEのモードを切り替えます。

- Mix CUE :
複数チャンネルのCUEが有効になります。
- Last CUE :
最後に選択したチャンネルだけCUEが有効になります。

② [SEND SEL] > [CUE] Link

オンにすると、SENDS ON FADERモードの送り先選択にCUEが追従します。

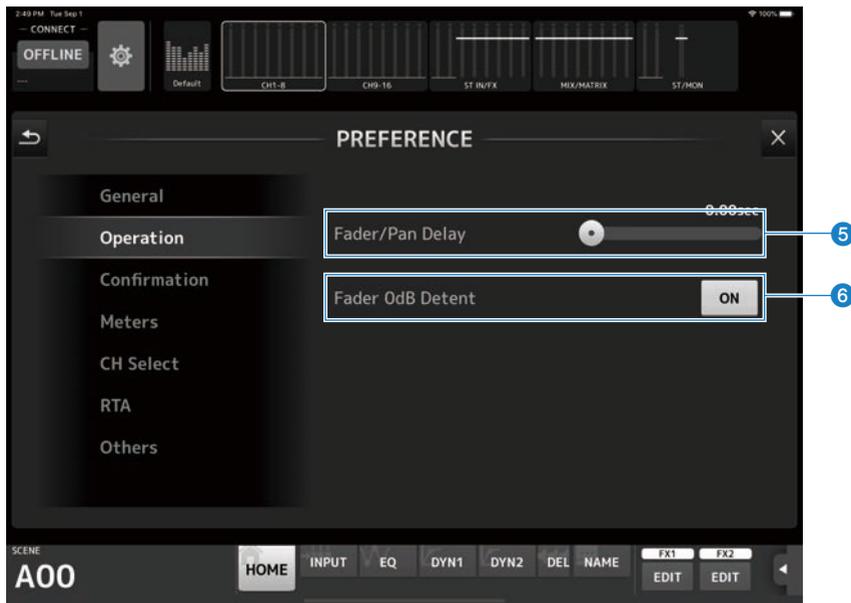
③ Enable Phantom Power Switching

INPUT画面にある、ファンタム電源を供給する+48Vボタンを操作するかどうかを設定します。オンのときは赤色で表示されます。オフにすると、INPUT画面で+48Vボタンが操作できなくなります。

4 Disable Screen Auto-Lock

オンにすると、iPadの画面自動ロック機能を無効にします。

■OPERATION



5 Fader/Pan Delay

フェーダーやパンのノブをタップしてから実際に動かせるようになるまでの時間を設定します。

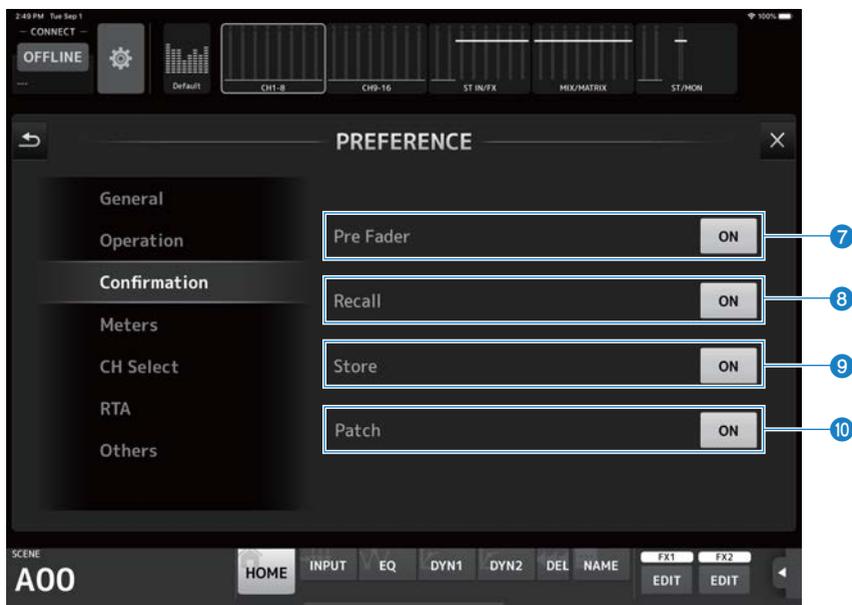
フェーダーやパンの値が意図せず動いてしまうのを防ぎます。

設定範囲：0.00～0.50sec (0.01sec単位)

6 Fader OdB Detent

オンにすると、フェーダーやパンを操作したときに、0dBやセンター(C)で一度止まります。さらにドラッグすると継続して設定を変更できます。

■CONFIRMATION



7 Pre Fader

オンにすると、SENDS ON FADERモードのときに、PREボタンをオンにするためにタップすると確認メッセージを表示します。

8 Recall

オンにすると、SCENE画面でシーンリコールをしたときに確認メッセージを表示します。

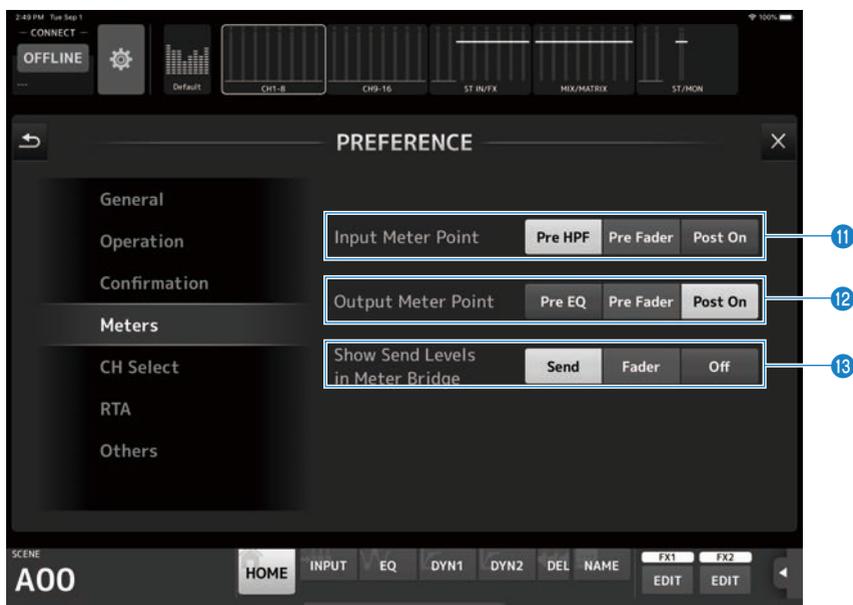
9 Store

オンにすると、SCENE画面でシーンを保存したときに確認メッセージを表示します。

10 Patch

オンにすると、INPUT画面で入力ソースを変更したときやINSERT画面でInsertパッチを変更した時に確認メッセージを表示します。

■ METERS



11 Input Meter Point

入力レベルを計測するポイントを選択します。

- Pre HPF :
ヘッドアンプの直後（HPFの直前）
- Pre Fader :
フェーダーの直前
- Post On :
[ON] キーの直後

12 Output Meter Point

出力レベルを計測するポイントを選択します。

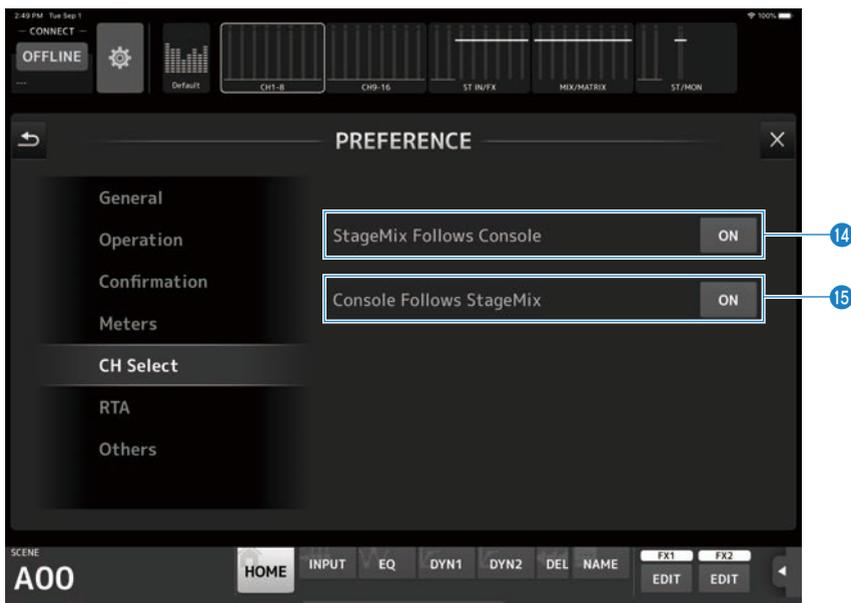
- Pre EQ :
EQの直前
- Pre Fader :
フェーダーの直前
- Post On :
[ON] キーの直後

13 Show Send Levels in Meter Bridge

SENDS ON FADERモードのときのメーターの表示を切り替えます。

- Send :
センドレベルがメーターエリアに表示されます。
- Fader :
フェーダーレベルがメーターエリアに表示されます。
- Off :
メーターエリアには何も表示されません。

■ CH SELECT



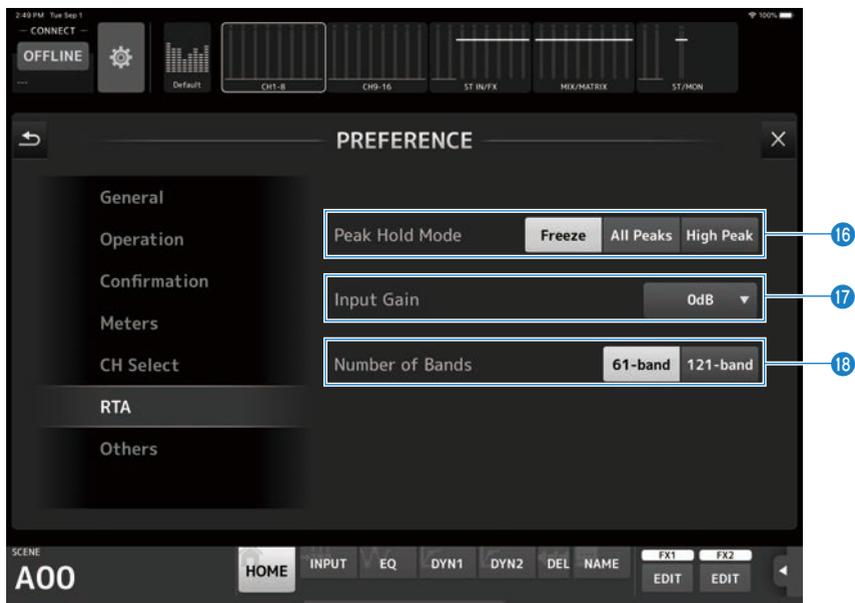
14 StageMix Follows Console

オンにすると、DM3シリーズ本体のチャンネル選択にStageMixのチャンネル選択が追従します。

15 Console Follows StageMix

オンにすると、StageMixのチャンネル選択にDM3シリーズ本体のチャンネル選択が追従します。

■RTA



16 Peak Hold Mode

RTAで表示するピークホールドのタイプを選択します。

- Freeze :
Holdボタンをオンにすると、その時点の値でRTA表示を止めます。Holdボタンをオフにすると表示が更新されます。
- All Peaks :
すべてのRTA周波数帯の最大値を赤色で表示します。
- High Peak :
最大値を測定した周波数帯を1箇所だけ赤色で表示します。

17 Input Gain

RTAに使用するiPadのマイクのインプットゲインを選択します。

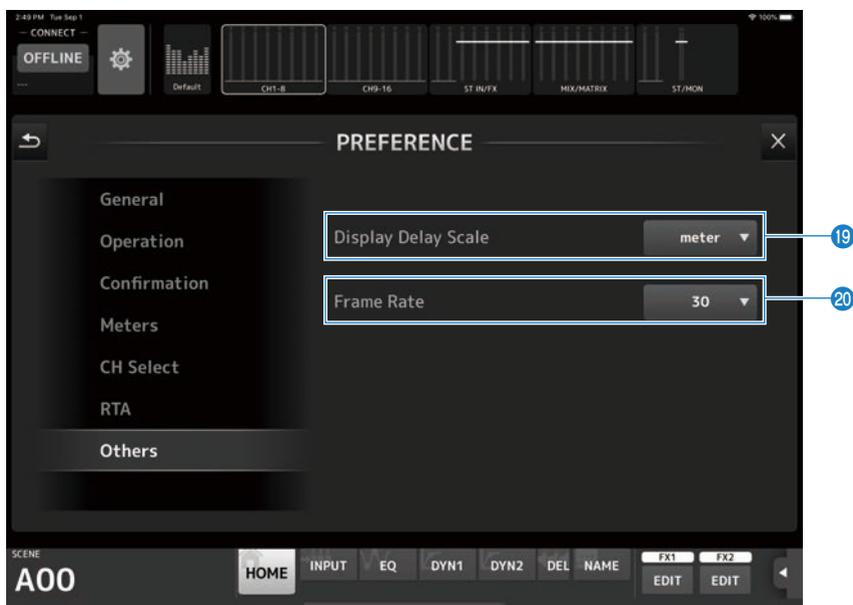
設定値：-24dB、-12dB、0dB、12dB、24dB

18 Number of Bands

RTAで表示する周波数のバンド数を設定します。

設定値：61-band、121-band

■ OTHERS



19 Display Delay Scale

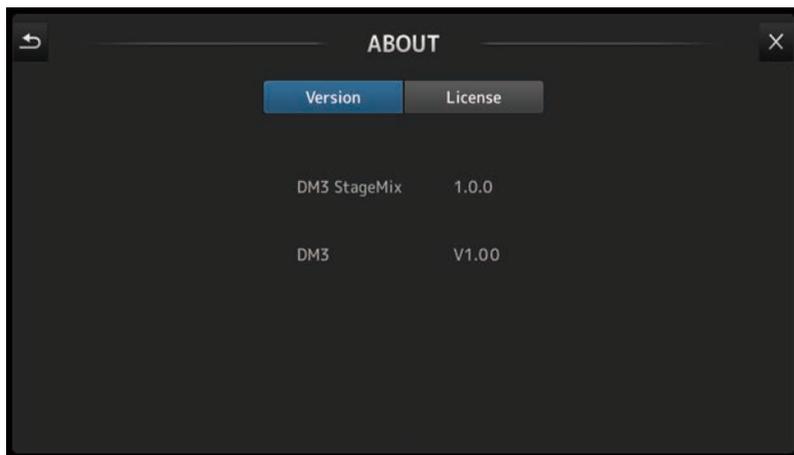
HOME画面のProcessingエリアに表示するDelayの単位をサンプル (sample)、フレーム (frame)、メートル (meter)、フィート (feet)、ミリ秒 (ms) から選択します。

20 Frame Rate

DELAYのエフェクトタイプで、frame単位でのディレイ設定のフレームレートを選択します。

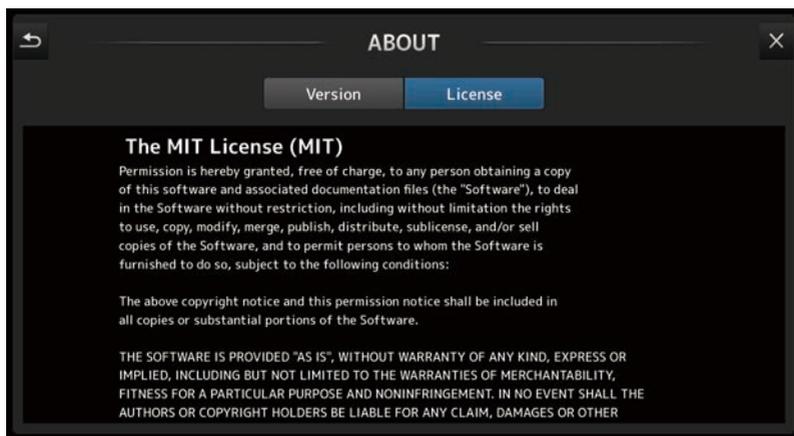
ABOUT (Version) 画面

ABOUT (Version) 画面では、DM3 StageMixのバージョン情報と、接続しているDM3シリーズの機種名、バージョン情報を表示します。



ABOUT (License) 画面

ABOUT (License) 画面では、DM3 StageMixが使用しているソフトウェアのライセンスを表示します。



詳細表示エリア

詳細表示エリアについて

詳細表示エリアには、8チャンネル分のストリップが表示されます。チャンネルの操作子以外の場所を左右にスワイプすると、表示されていないチャンネルを表示できます。



- ① Processingエリア (44ページ)
- ② Faderエリア (47ページ)
- ③ CH Nameエリア (49ページ)

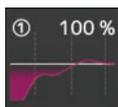
Processingエリア

Processingエリアは、各チャンネルのINPUT、EQ、DYN1、DYN2、SEND TO、GEQ、SEND PAN（SENDS ON FADERモード時）、DELAY、FX、INSERTの設定を表示します。

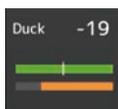
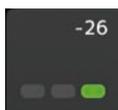
- INPUT :



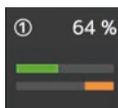
- EQ :



- DYN1 :



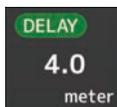
- DYN2 :



- GEQ :



- DELAY :



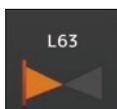
- FX :



- SEND TO :



- SEND PAN :



- INSERT :



チャンネルタイプによって表示される内容が変わります。タップすると、内容に応じた設定画面が表示されます。(SEND PANには設定画面がありませんが、アイコン上で指をスライドして値を変更できます。)

このエリアを左右にスワイプすると、表示する内容を切り替えられます。詳細表示エリアに表示されているチャンネルの表示がまとめて切り替わります。

表示する内容とチャンネルは次のとおりです。

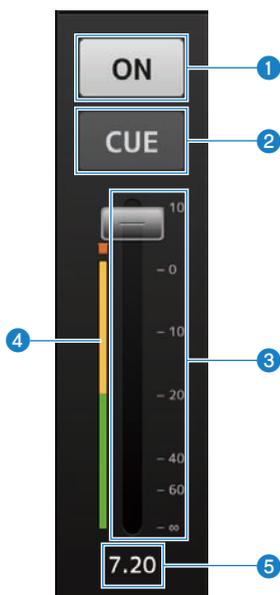
	CH1-16	STIN	FX RTN	FX	STEREO	MIX	MATRIX	MON
INPUT	✓	✓	✓	—	—	—	—	—
EQ	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	—
DYN1	✓	✓	✓	—	—	—	—	—
GEQ	—	—	—	—	✓	✓	—	—
DYN2	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	—
Delay	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	—
FX	—	—	—	✓	—	—	—	—
SEND TO	✓	✓	✓	—	✓	✓	—	—
SEND PAN	✓	✓	✓	—	✓	✓	—	—
INSERT	✓	—	—	—	✓	✓	✓	—

お知らせ

- MATRIXチャンネルがステレオに設定されている場合は、STEREO、MIXチャンネルにSEND PANが表示されません。
- PREFERENCE画面の「Display Delay Scale」で、DELAYボックスの表示単位をsample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）から選択できます。

Faderエリア

Faderエリアは、各チャンネルのオン/オフやフェーダー値、CUEを操作します。



① ONボタン

タップして、チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。MUTE Groupがオンのときは点滅します。点滅中にタップすると、ミュートが解除されます。

② CUEボタン

タップして、チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。MONITORチャンネルでは表示されません。

③ フェーダー

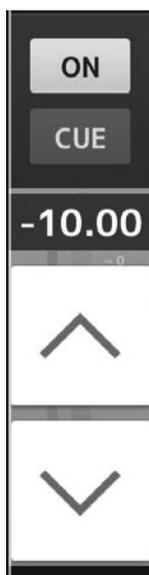
フェーダーのノブを上下にドラッグしてフェーダーレベルを調節します。
ノミナル値 (0dB) で一度止まり、さらにドラッグすると継続してフェーダー値を変更できます。
左右にドラッグしてから上下にドラッグすると、細かい分解能で調節できます。
複数のフェーダーを同時に操作できます。

④ メーター表示

チャンネルのレベルを表示します。メーターポイントはUTILITY画面→Preference画面→Meters画面で設定します。
MONITORチャンネルやステレオリンクしているチャンネルでは2本表示されます。

5 フェーダー値

現在のフェーダー値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。

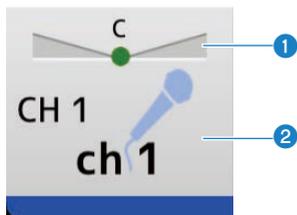


関連リンク

「PREFERENCE画面」 (34ページ)

CH Nameエリア

CH Nameエリアは、パン（バランス）の操作や、チャンネルのナンバー/ネーム/アイコン/カラーを表示します。



① パン/バランススライダー

左右にドラッグしてパン/バランスを設定します。

センターで一度止まり、さらにドラッグすると継続して値を変更できます。

センターに設定されているときは、丸いアイコンが表示されます。ダブルタップするとセンターになります。

複数のチャンネルのパン/バランスを同時に操作できます。

② チャンネル表示

チャンネルナンバー、ネーム、アイコン、カラーを表示します。

英語以外の言語も表示できます。

ダブルタップするとCH NAME画面が表示されます。

関連リンク

「チャンネルネームに使用できる言語」 (96ページ)

概要ストリップエリア

概要ストリップエリアには、通常はSTEREOチャンネルのストリップが表示されます。SENDS ON FADERモード時は、送り先のFXチャンネル、MIXチャンネル、MATRIXチャンネルのストリップが表示されます。



ストリップ左側のチャンネル番号をタップすると、SENDS ON FADERモードに切り替わります。選択しているチャンネルはチャンネルカラーでハイライトされます。一番下のEXITまたは選択しているチャンネル番号をタップすると通常モードに戻ります。

SENDS ON FADERモード時に、選択しているチャンネルを長押しすると、長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするためのポップアップメニューが表示されます。

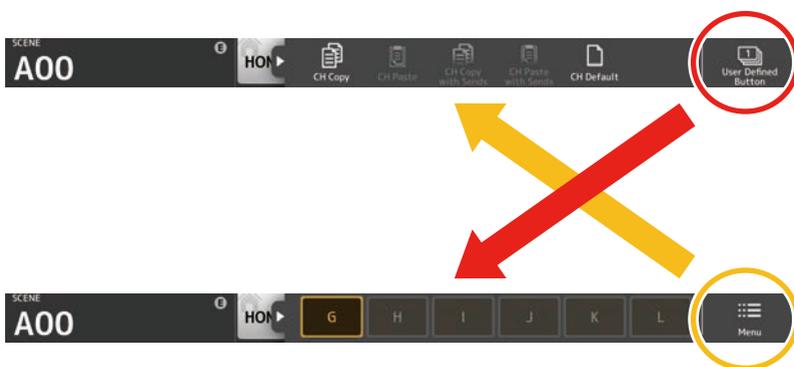
メニュー

メニューについて

メニューボタンをタップすると隠れているメニューが表示されます。



表示されるメニューには、コンテキストメニューとUser Defined Buttonメニューの2種類があり、MenuボタンとUser Defined Buttonで表示を切り替えます。



コンテキストメニュー

各画面で用意されているメニューが表示されます。メニューの詳細は、各画面の説明をご覧ください。

User Defined Buttonメニュー

USER DEFINED BUTTONSが表示されます。USER DEFINED BUTTONSに割り当てられている機能が有効なときはボタンが点灯し、タップすると機能が実行されます。

お知らせ

- Recorder – TransportのPlay/Pause機能が割り当てられている場合は、ボタンが再生時に点灯、一時停止時に点滅、停止時に消灯します。
- Recorder – TransportのRec、Auto Rec、Rec & Start機能が割り当てられている場合は、ボタンが録音時に点灯、録音中断時に点滅、停止時に消灯します。
- Page Change – Bookmark機能が割り当てられている場合は、長押しで表示中の画面をブックマークに保存し、タップで保存してあった画面を呼び出します。

HOME画面のメニュー

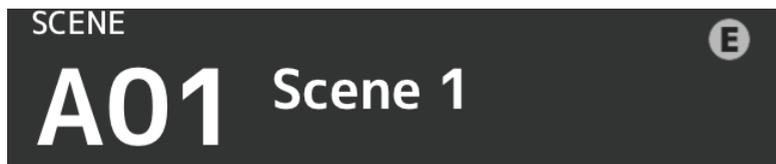
HOME画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

- CH Copy :
選択しているチャンネルの設定をコピーします。
- CH Paste :
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。
- CH Copy with Sends :
選択しているチャンネルの設定をチャンネルに送られてくるセンドレベルも含めてコピーします。
- CH Paste with Sends :
選択しているチャンネルにコピーしたチャンネルの設定をチャンネルに送られてくるセンドレベルも含めてペーストします。
- CH Default :
選択しているチャンネルの設定を初期化します。

SCENE

SCENEエリア

SCENEエリアには、選択しているシーン名を表示します。

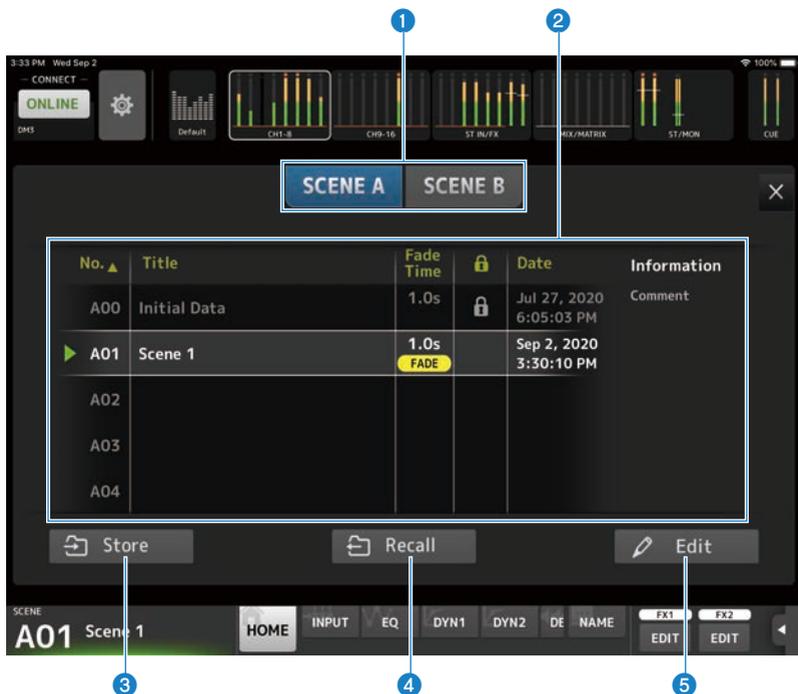


シーンをリコールしたあとパラメーターを変更するとEマークが表示されます。プロテクトがかかったシーンを選択しているときは、鍵マークが表示されます。現在展開されているシーンと異なるシーンが選択されているときは、シーン番号が点滅します。

SCENEエリアをタップするとSCENE画面が表示されます。

SCENE画面

SCENE画面は、ミキサーの設定を保存したシーンを管理する画面です。



① シーンリスト切り替えボタン

表示するシーンリストを切り替えます。

- SCENE A:
シーンリストAを表示します。
- SCENE B:
シーンリストBを表示します。

② シーンリスト

保存されたシーンをリスト表示します。

リストの項目名をタップすると、タップした項目の内容でソートします（Informationを除く）。

シーンをタップすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、呼び出しの対象になります。

現在呼び出しているシーンには、緑の三角マークが付きます。

Fade Time欄にはシーンに設定されているフェードタイムが表示されます。フェードタイムが有効になっている場合、FADEアイコンが表示されます。



フェードタイムの設定は本体で行います。



鍵アイコンが付いているシーンは編集できません。

Date欄には、最後に保存した日時が表示されます。

③ Storeボタン

現在のミキサーの設定をシーンリストで選択されている番号のシーンに保存します。

タップすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

お知らせ

PREFERENCE画面のStore Confirmationがオンのときは、ストアの実行前に確認メッセージが表示されます。OKボタンをタップすると選択したシーンが保存されます。Store Confirmationがオフのときは、そのまま保存されます。

④ Recallボタン

シーンリストで選択しているシーンを呼び出します。

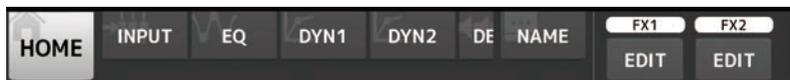
⑤ Editボタン

タップすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

チャンネル専用画面

TOOLBARエリアについて

各ボタンをタップして、詳細表示エリアに表示する画面を切り替えます。表示中のボタンが点灯します。



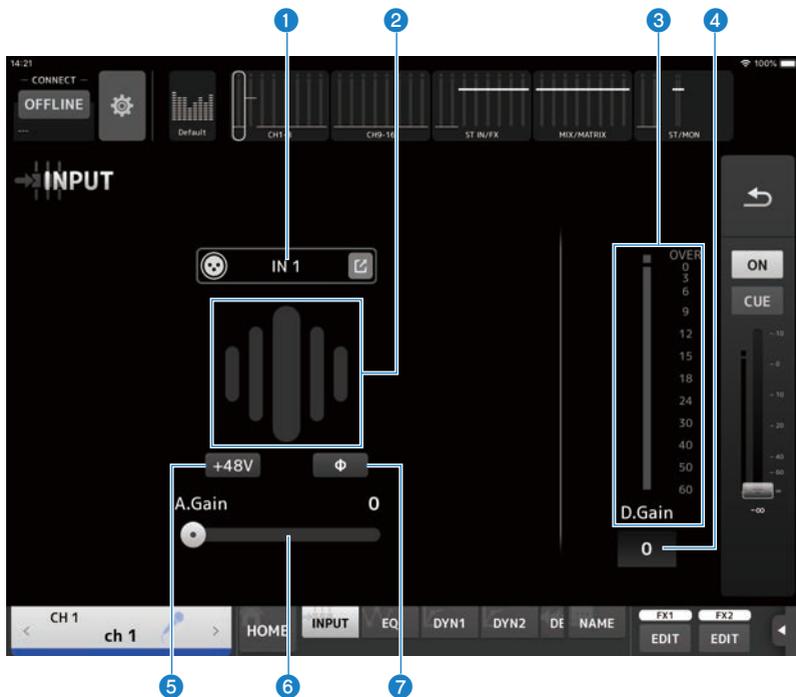
選択しているチャンネルによって、表示されるボタンは変わります。

ボタン数が多く表示しきれないボタンがある場合は、左右にスワイプすると表示されていないボタンが表示されます。

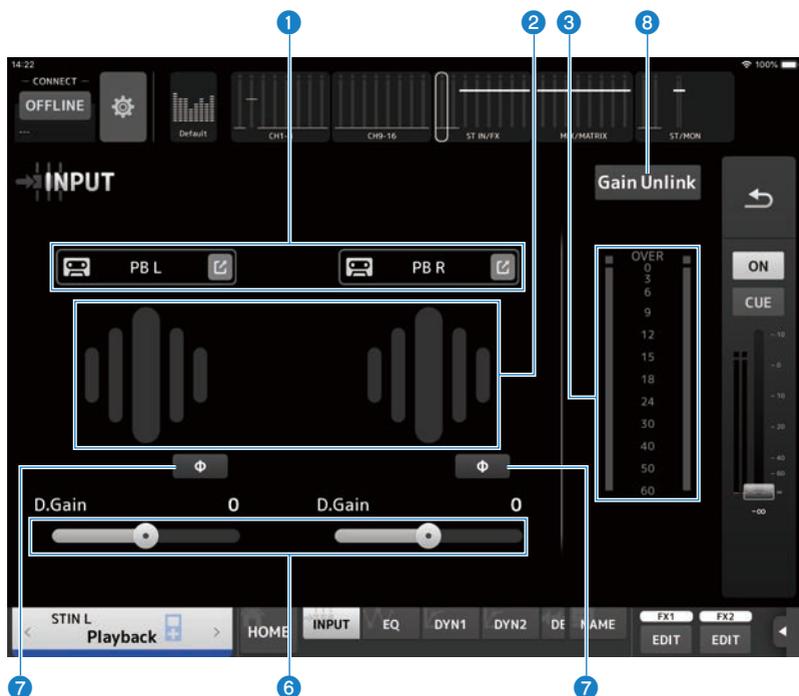
INPUT画面

INPUT画面は、TOOLBARエリアのINPUTボタンをタップすると表示されます。
ファンタム電源のオン/オフ、フェイズの切り替え、入力ゲインを設定します。

■CH1-16の場合



■ST IN、FX RTNチャンネルの場合



1 INPUT PATCHボタン

インプットチャンネルの入力ソース（入力ポート）を選択します。

- IN：
[INPUT]端子に接続した機器からの入力。
- DANTE：
Danteポートからの入力。DM3とDante接続されたTio1608-Dなどのステージボックスからの入力の選択に使用してください。
- USB：
[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターからの入力。
- FX：
FXバスからの入力。
- PB：
Playbackからの入力。トップパネルのUSB端子に挿入したポータブルデバイスなどからの入力を選択します。
編集アイコンをタッチすると、INPUT CH PATCH画面を表示します。

お知らせ

- DM3 STANDARDはDanteを使用できません。
- USBを選択したときは、ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、+48Vボタンが非表示になります。
- DANTEを選択した場合、ヘッドアンプの操作ができない機器からの入力の場合は、ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、+48Vボタンが非表示になります。
- 入力ソースをDANTEに設定しても、DANTE機器側がオフラインの場合やDANTEがセカンダリーポートで動作している場合、OFFLINEが表示されます。



- 入力ソースをDANTEに設定しても、エラーが発生している場合、ERRORが表示されます。



② GainFinder (ゲインファインダー)

入力ゲインレベルを表示します。音声を入力したときに、レベル表示が中央に合うように調整すると、入力ゲインを適切な範囲に設定できます。インプット選択でUSBを選択しているときは、デジタル段の入力ゲインレベルが表示されます。

3 レベルメーター

ゲイン調整後のレベルを表示します。

4 デジタルゲインテキストボックス

デジタルゲインを設定します。初期設定では0dBに設定されています。テキストボックスをタップすると、上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。

5 +48Vボタン

ヘッドアンプのファンタム電源 (+48V) のオン/オフを切り替えます。

- オン：
ファンタム電源をオンにします。
- オフ：
ファンタム電源をオフにします。

インプット選択がUSBのときは非表示になります。

ご注意

- ファンタム電源について
ファンタム電源が不要な場合、+48Vボタンをオフにしてください。
ファンタム電源を使用する場合は、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。
- [INPUT]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、+48Vボタンをオフにする。
- +48Vボタンをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
- +48Vボタンのオン/オフは、そのチャンネルのボリュームをすべて最小にした状態で行う。

お知らせ

ファンタム電源を使用中で、[INPUT]端子に接続されている機器のHotとCold間の出力インピーダンスに差がある場合にはノイズが発生することがあります。

6 ゲインスライダー

インプット選択がINPUTのときは、ヘッドアンプのアナログゲインを設定します。

アナログゲインを+17dBと+18dBの間で変化させると、PAD (-24dB) のオン/オフが切り替わります。

インプット選択がUSBのときは、デジタルゲインを設定します。

7 φ (フェイズ) ボタン

信号の位相を切り替えます。

オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

8 Gain Unlinkボタン

ステレオチャンネルの場合に表示されます。ボタンを押している間、ゲイン操作のリンクが一時的にオフになり、左右のゲインを個別に操作できます。ボタンを離すと、ボタンを離したときの差分を保ったまま左右のゲインがリンク動作します。

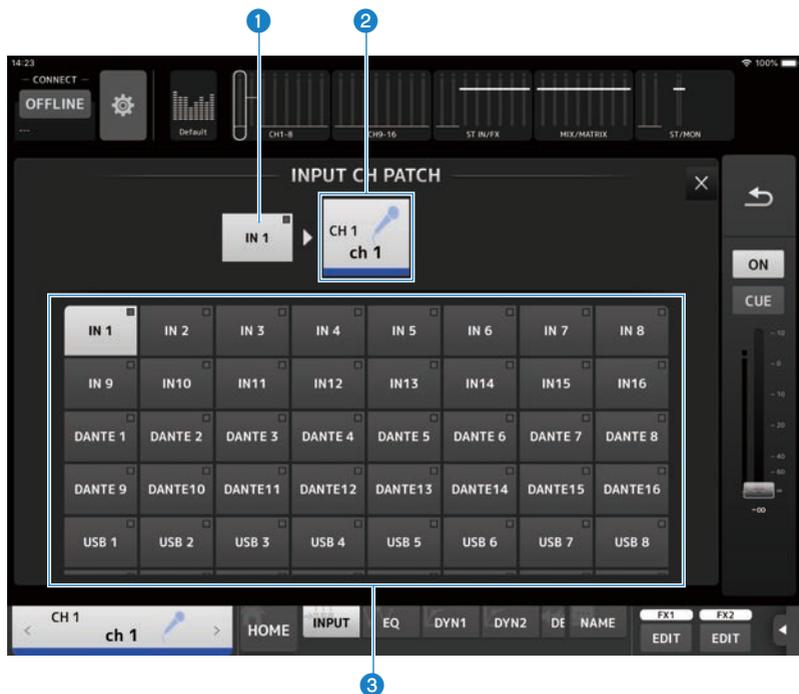
INPUT画面のメニュー

INPUT 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- All Input :
入力ソースを[INPUT]端子に一括で切り替えます。
- All USB :
入力ソースを[USB TO HOST]端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。
- All DANTE :
入力ソースをDante機器からの入力に一括で切り替えます。
- Clear All :
入力ソースの割り当てを一括で解除（Noneに設定）します。
- Default All :
入力ソースの割り当てを一括で初期設定に戻します。

INPUT CH PATCH画面

INPUT CH PATCH画面は、インプットチャンネルにパッチするポートを設定する画面です。



① ポートネーム

チャンネルにパッチされているポート名が表示されます。

② チャンネルネーム

パッチ先のチャンネル名が表示されます。左右にスワイプするとチャンネルの選択をアップ/ダウンできます。

③ ポートボタン

チャンネルにパッチするポートを選択します。

INPUT CH PATCH画面のメニュー

INPUT CH PATCH画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

• All Input:

入力ソースを[INPUT]端子に一括で切り替えます。

- All USB :
入力ソースを[USB TO HOST]端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。
- All DANTE :
入力ソースをDante機器からの入力に一括で切り替えます。
- Clear All :
全てのパッチを、一括で解除 (Noneに設定) します。
- Default All :
入力ソースの割り当てを一括で初期設定に戻します。

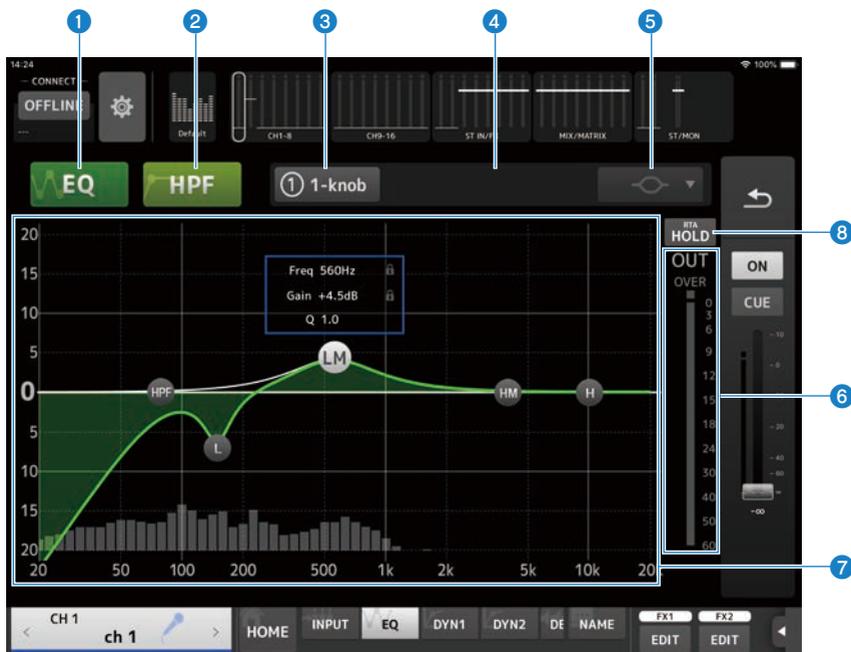
チャンネル	入力ソース
CH1-16	INPUT 1-16
ST IN L/R	PLAYBACK L/R
FX RTN 1-2 L/R	FX OUT 1-2 L/R

EQ画面

EQ画面は、TOOLBARエリアのEQボタンをタップすると表示されます。

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2、MIX1-6、STEREO、MATRIX1-2に、4バンドのパラメトリックEQが用意されています。CH1-16では、HPF（ハイパスフィルター）を使用できます。

簡単に操作できる1-knobモードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えもこの画面で操作します。



1 EQボタン

EQのオン/オフを切り替えます。

2 HPFボタン

HPF（ハイパスフィルター）のオン/オフを切り替えます。
CH1-16で表示します。

3 1-knobボタン

1-knob EQモードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQモードのときは、ボタンの横に1-knobレベルスライダーが表示されます。

4 1-knobレベルスライダー

1-knob EQのかかり具合を調節します。

5 EQモードタイプ選択ボタン

マニュアルモードのときは、フィルタータイプを選択します。LOWバンドとHIGHバンドはフィルタータイプを切り替えることができます。

CH1-CH16のLOWバンドは、ローシェルピングとベルタイプを選べます。

それ以外のチャンネルEQ（専用のHPFが装備されていないチャンネルEQ）では、HPF、ローシェルピング、ベルタイプから選べます。

HIGHバンドは、LPF、ハイシェルピング、ベルタイプから選べます。

1-knob EQモードの場合は、1-knob EQのタイプを選択します。ボーカルには「Vocal」を、それ以外の楽器には、「Intensity」を選びます。

「Intensity」の場合は、マニュアルモードで設定した値を中間値として、フラットから設定値をさらに強調した設定の間を操作できます。

出力チャンネルのEQには「Loudness」が用意されています。低域と高域を強調する設定を操作できます。

選択できるタイプは、次のようにチャンネルによって異なります。

	CH1-16 HPF+4Band	STIN 4Band	FX RTN 4Band	MIX 4Band	STEREO 4Band	MATRIX 4Band
Intensity	○	○	○	○	○	○
Vocal	○	×	×	×	×	×
Loudness	×	×	×	○	○	○

6 EQアウトプットレベルメーター

EQの出力レベルを表示します。

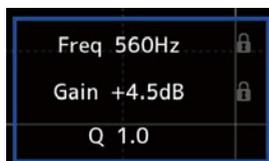
7 周波数特性表示/設定

EQやフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。

1-knob EQモードの場合は、1-knobレベルスライダーを左右にドラッグして操作します。

マニュアルモードでは、カーブ上のハンドルをドラッグして設定を変更します。フィルタータイプがベルタイプの場合は、グラフ上のカーブをピンチしてQの値を変更できます。

選択中のバンドのパラメーター情報がポップアップでハンドルの上側に表示されます。



この欄をタップすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、カットオフ周波数やゲインの変更を禁止できます。鍵アイコンはバンドごとに設定できます。



ハンドルをダブルタップすると、EQのゲインが初期設定に戻ります。

HPFがオンのときは、HPFのハンドルをドラッグして、カットオフ周波数を操作します。HPFは、1-knobのタイプがIntensityのときも独立して操作できます。

グラフの0dB以下でパラメーターのない場所をタップすると、RTAや鍵盤が表示されます。音域と周波数の関係を把握するのに便利です。

はじめてEQ画面を開いたときは、RTA表示のためにiPadのマイクを使用するかどうかの確認ダイアログが表示されます。



「許可しない」をタップすると、それ以降はRTAが表示されません。RTAを表示したい場合は、iOSのSettings → Privacy → Microphone画面で、StageMixをオンにしてください。

お知らせ

表示されるRTAは、iPadのマイクからの入力音を解析します。

8 Holdボタン

オンにするとRTA表示内でピーク値を表示します。表示のしかたは、PREFERENCE画面のPeak Hold Modeの設定に従います。RTA表示がオフのときは、グレー表示になり無効になります。

EQ画面のメニュー

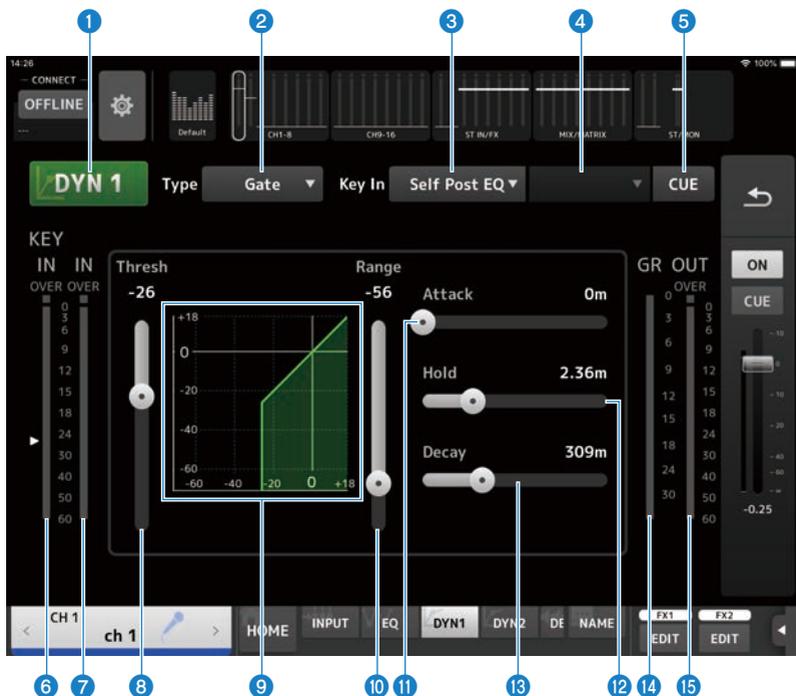
EQ画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- Copy :
選択しているチャンネルのEQのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- Paste :
コピーバッファーに格納されているEQのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Compare :
選択しているチャンネルのEQのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているEQのパラメーターを切り替えて比較します。
- Gain Flat :
選択しているチャンネルのEQゲインをフラットに設定します。
- Default :
EQの設定を初期状態に設定します。

DYN1画面

DYN1画面は、TOOLBARエリアのDYN1ボタンをタップすると表示されます。

チャンネルのゲートを設定します。スレッシュドレベル（しきい値）より小さい信号が入力された場合、出力を一定の値（RANGE）で小さくします。DYN1はCH1-16、STIN、FX RTNのチャンネルに搭載されています。



1 DYN1ボタン

DYN1機能のオン/オフを切り替えます。

2 Type選択ボタン

GATE、DUCKINGのどちらかを選択します。

3 Key In選択ボタン

Key In信号を以下の中から選択します。

- Self Pre EQ
- Self Post EQ
- Other Ch
- Mix

4 Key Inチャンネル選択ボタン

Key In選択ボタンで、Other Ch、Mixを選択した場合に有効になります。
Other Chを選択した場合は、CH1-16 Post EQの中から選択します。
Mixを選択した場合は、Mix Out1-6の中から選択します。

5 CUEボタン

Key In信号のCUEのオン/オフを切り替えます。

6 DYN1 Key Inレベルメーター

Key Inの入力レベルを表示します。

7 DYN1インプットレベルメーター

DYN1の入力レベルを表示します。

8 Thresholdスライダ

GATE/DUCKINGの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

9 GATE/DUCKINGグラフ

GATE/DUCKINGレベルの設定を視覚的に表示します。

10 Rangeスライダ

GATE/DUCKINGの効果がかかっているときの減衰量を設定します。

11 Attackスライダ

入力信号がスレッシュホールドレベルを超えてから、ゲートが開くまでの時間を設定します。

12 Holdスライダ

入力信号がスレッシュホールドレベルを下回ったあとにゲートが閉じ始めるまでの待ち時間を設定します。

13 Decayスライダ

入力信号がHOLDの待ち時間を経たあと、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが6 dB変化するのに要する時間で表現します。

14 GR (ゲインリダクション) メーター

ゲインリダクション量を表示します。

15 OUT (アウトプット) メーター

GATE/DUCKINGの出力レベルを表示します。

DYN1画面のメニュー

DYN1画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

• Copy:

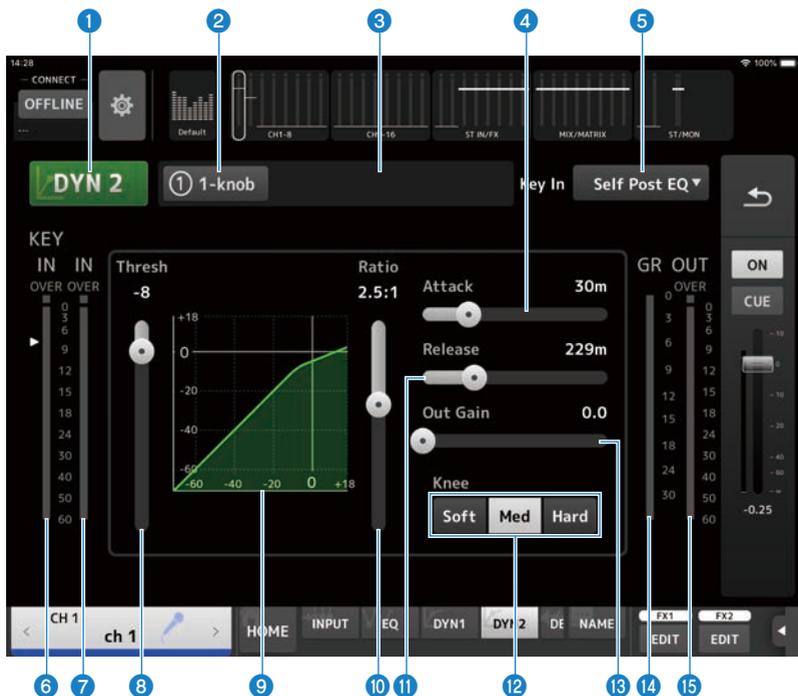
選択しているチャンネルのDYN1のパラメーターをコピーバッファに格納します。

各部の名称と機能 > チャンネル専用画面

- Paste :
コピーバッファーに格納されているDYN1のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Compare :
選択しているチャンネルのDYN1のパラメーターと、コピーバッファーに格納されているDYN1のパラメーターを切り替えて比較します。
- Default :
DYN1の設定を初期状態に設定します。

DYN2画面

DYN2画面は、TOOLBARエリアのDYN2ボタンをタップすると表示されます。
各チャンネルのコンプレッサーを設定します。



1 DYN2ボタン

DYN2機能のオン/オフを切り替えます。

2 1-knobボタン

1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

3 1-knobレベルスライダー（1-knobモード時のみ）

1-knob COMPのかかり具合を調整します。

マニュアルモードのときは、表示されません。

4 Attackスライダー

入力信号がThresholdスライダーで設定した値を超えてから、コンプレッサーの効果が最大に達するまでの時間を設定します。

5 Key In選択ボタン

Key In信号を以下の中から選択します。

- Self Pre EQ
- Self Post EQ

6 Key Inレベルメーター

Key Inの入力レベルを表示します。

7 DYN2インプットレベルメーター

DYN2への入力レベルを表示します。

8 Threshold スライダー

コンプレッサーの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

9 コンプレッサーグラフ

設定状態を視覚的に表示します。

10 Ratioスライダー

コンプレッサーの圧縮量を設定します。

11 Releaseスライダー

入力信号がThresholdスライダーで設定した値以下になったあと、コンプレッサーの効果がなくなるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが6dB変化するのに要する時間で表現します。

12 Kneeボタン

スレッシュホールドレベルでの折れ曲がりの鋭さを選択します。Softではなめらかに、Hardでは急激にコンプレッサーがかかります。

13 Out Gainスライダー

コンプレッサーの出力レベルを調整します。

14 GR (ゲインリダクション) メーター

ゲインリダクション量を表示します。

15 OUT (コンプレッサーアウトプット) メーター

コンプレッサーの出力レベルを表示します。

DYN2画面のメニュー

DYN2画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

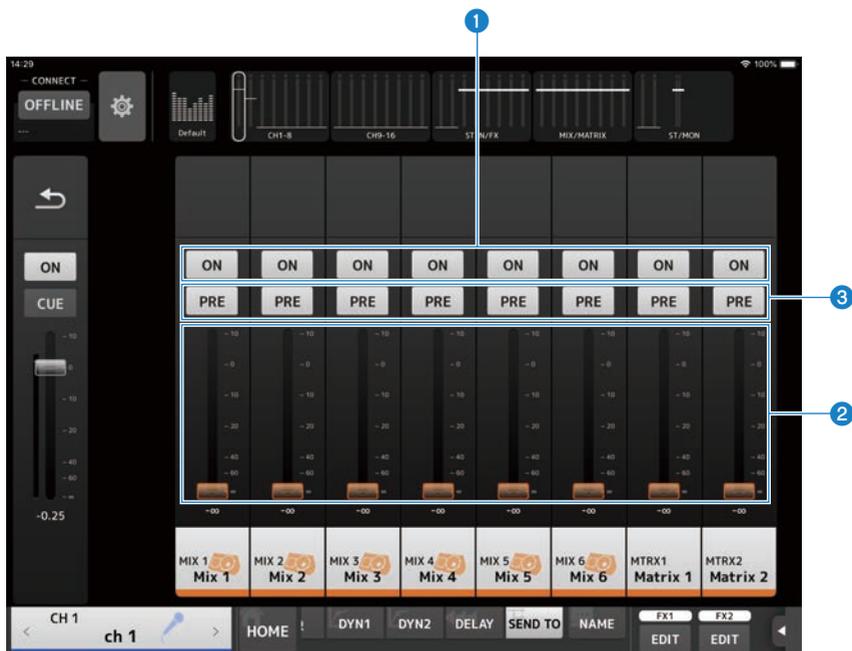
• Copy:

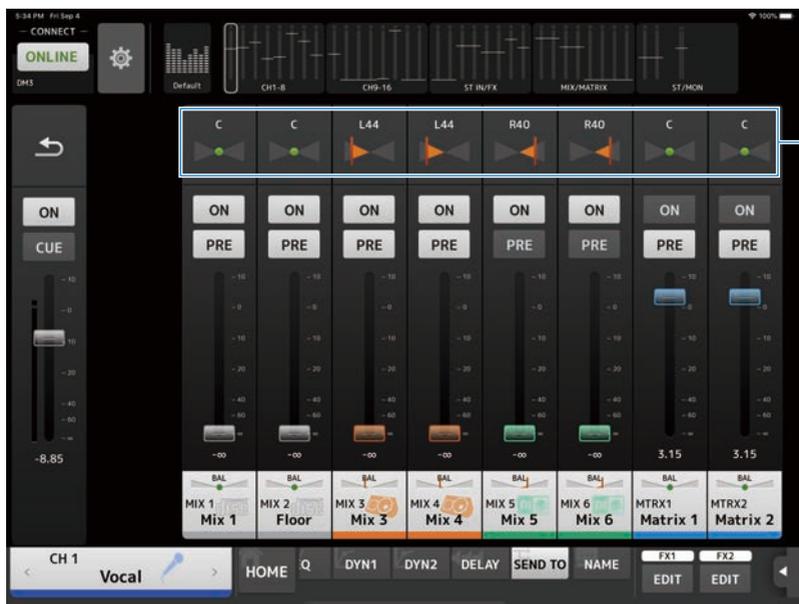
選択しているチャンネルのDYN2のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

- Paste :
コピーバッファーに格納されているDYN2のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Compare :
選択しているチャンネルのDYN2のパラメーターと、コピーバッファーに格納されているDYN2のパラメーターを切り替えて比較します。
- Default :
DYN2の設定を初期状態に設定します。

SEND TO画面

SEND TO画面では、各チャンネルからMIX/MATRIXバスへの送り量を設定します。
TOOLBARエリアのSEND TOボタンをタップすると表示されます。





① SEND ONボタン

MIX/MATRIXバスへの送りのオン/オフを切り替えます。

② SEND LEVELスライダー

MIX/MATRIXバスへの送り量を調整します。

③ PREボタン

MIX/MATRIXバスに送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。

- オン:
フェーダーの前
- オフ:
フェーダーの後

オンにした場合、DM3シリーズ本体のBUS SETUP画面のPre Fader Send Pointで、EQの直前かフェーダーの直前かを選択できます。

④ SEND PANスライダー

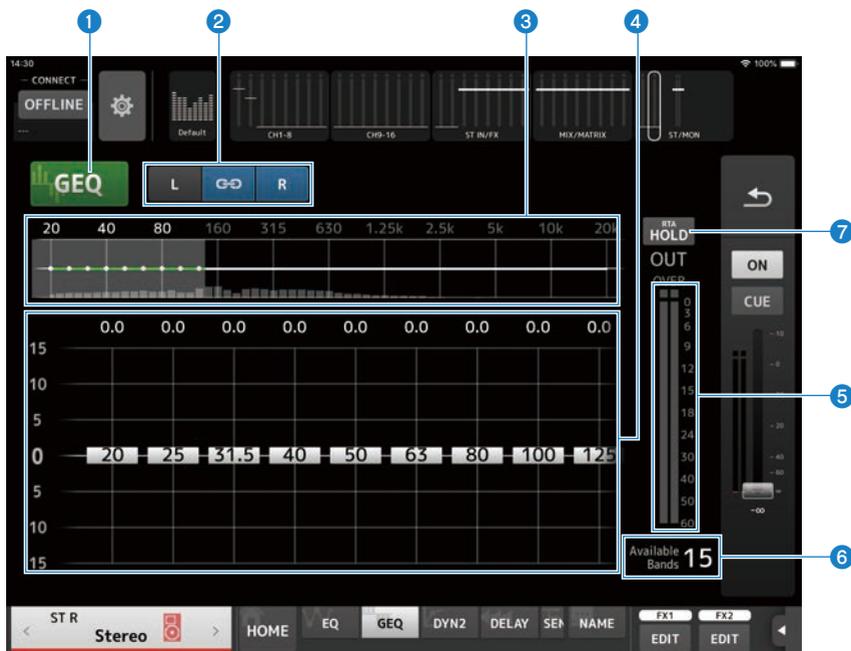
送り先のMIX/MATRIXバスがステレオのときに表示されます。センドパンを調節します。

GEQ画面

MIX1-6とSTEREOチャンネルでは、グラフィックEQ（以下”GEQ”）が使用できます。モノラル仕様の31バンドGEQです。バンド幅は1/3オクターブ刻み、ゲインの可変幅は±15dBです。

31バンドのうち、任意の15バンドまでゲインを操作できます。

GEQ画面は、TOOLBARエリアのGEQボタンをタップすると表示されます。



1 GEQボタン

GEQのオン/オフを切り替えます。

2 GEQ設定チャンネル/LR Link選択ボタン

シグナルタイプがステレオのMIXチャンネル、またはSTEREOチャンネルを選択した場合は表示されます。

モノラルのMIXチャンネルの場合は表示されません。

-  :
LR Linkのオン/オフを切り替えます。
- L/R :
選択チャンネルのLとRを切り替えます。

③ 周波数特性、RTA表示、ゲイン操作可能バンド選択

パラメーターの特性/RTAを表示します。

タップすると、ゲインスライダーが、タップした周波数を中心に表示されます。

ゲインスライダーの操作中は、操作しているバンドの点がピンク色でハイライトされます。

④ ゲインスライダー

ハンドルを上下にドラッグしてゲインを調整します。ハンドルの上部にゲインの値が表示されます。

ハンドルをダブルタップするとゲインが0dBになります。

ハンドル以外の場所を横にスワイプすると、ゲイン操作できるバンドの表示が切り替わります。

⑤ 出力レベルメーター

GEQの出力レベルを表示します。

⑥ 操作可能バンド表示

ゲインを操作できる未使用バンド数を表示します。

⑦ Holdボタン

オンにするとRTA表示内でピーク値を表示します。表示のしかたは、PREFERENCE画面のPeak Hold Modeの設定に従います。

GEQ画面のメニュー

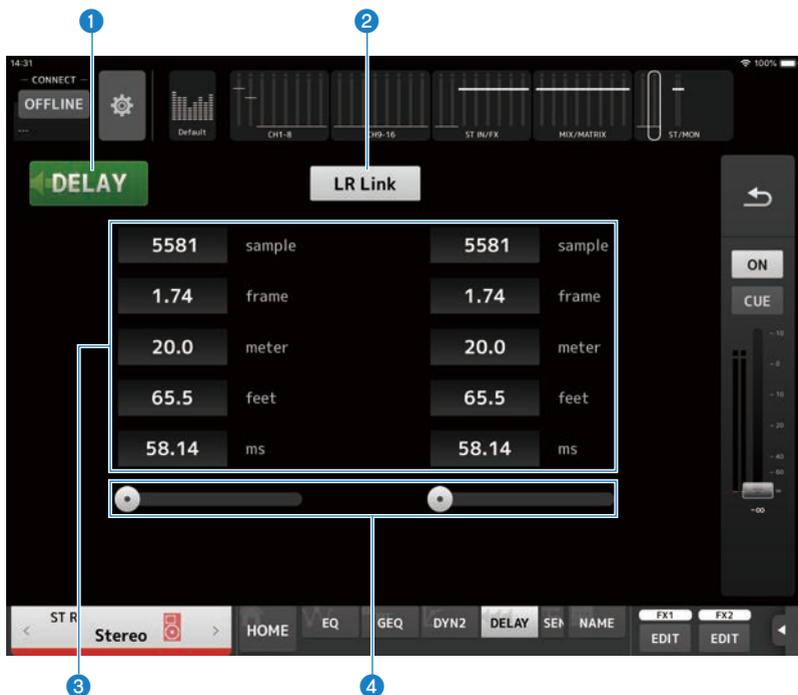
GEQ画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- Copy :
選択しているチャンネルのGEQのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- Paste :
コピーバッファーに格納されているGEQのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Compare :
選択しているチャンネルのGEQのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているGEQのパラメーターを切り替えて比較します。
- Default :
GEQの設定を初期状態に設定します。

DELAY画面

DELAY画面では、チャンネルから出力する信号のディレイを設定します。DELAYはFXバスを除くチャンネルに搭載されています。

DELAY画面は、TOOLBARエリアのDELAYボタンをタップすると表示されます。



1 DELAYボタン

DELAYのオン/オフを切り替えます。

2 LR Linkボタン

選択中のチャンネルがステレオチャンネルの場合に表示します。

DELAYのオン/オフとディレイタイムの操作をリンクします。ディレイタイムが違う値で設定されている場合は、差分を保ったままディレイタイムがリンク動作します。

3 DELAY設定テキストボックス

ディレイをsample (サンプル)、frame (フレーム)、meter (メートル)、feet (フィート)、ms (ミリ秒) で指定できます。タップすると、数値で入力する画面が表示されます。

4 DELAYスライダー

ディレイタイムを設定します。

ディレイタイムはsample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）単位で表示されます。

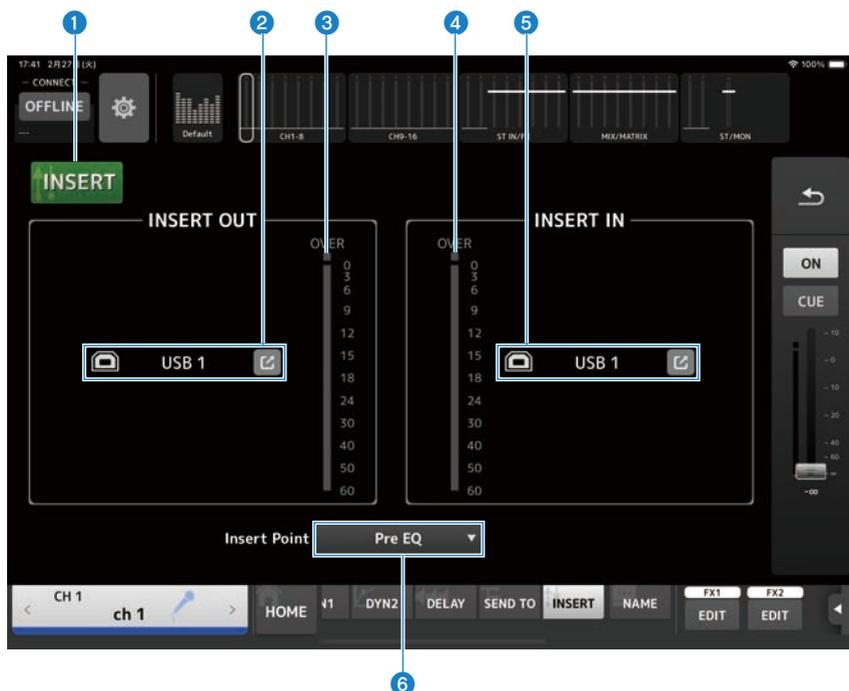
DELAY 画面のメニュー

DELAY 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- Copy :
選択しているチャンネルのDELAYのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- Paste :
コピーバッファーに格納されているDELAYのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Default :
DELAYの設定を初期状態に設定します。

INSERT画面

RECORDER画面では、DM3シリーズのRecorderを操作します。



1 INSERTボタン

インサートのオン/オフを切り替えます。
コンソールのInsert Activeボタンがオフの場合、点滅します。

2 INSERT OUT PATCHボタン

インサートへの出力ソース（出力ポート）を選択します。

- USB：
[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターへの出力。
- DANTE：
Danteポートへの出力。DM3とDante接続されたTio1608-Dなどのステージボックスへの出力の選択に使用してください。

ジャンプボタンをタッチすると、INSERT OUT PATCH画面を表示します。

お知らせ

DM3 STANDARDはDanteを使用できません。

3 レベルメーター

インサートへ出力される信号のレベルを表示します。

4 レベルメーター

インサートに入力する信号のレベルを表示します。

5 INSERT IN PATCHボタン

インサートの入力ソース（入力ポート）を選択します。

- USB :

[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターからの入力。

- DANTE :

Danteポートからの入力。DM3とDante接続されたTio1608-Dなどのステージボックスからの入力の選択に使用してください。

ジャンプボタンをタッチすると、INSERT IN PATCH画面を表示します。

お知らせ

DM3 STANDARDはDanteを使用できません。

6 Insert Pointボタン

インサートポイントを選択します。

- Pre EQ :

EQの直前

- Pre Fader :

フェーダーの直前

- Post On : (INPUTチャンネルとMIXチャンネルのみ)

[ON]キーの直後

FX画面

FX画面では、エフェクトの種類やパラメーターを設定します。

FX画面は、TOOLBARエリアのFX1ボタン、FX2ボタンをタップすると表示されます。



1 FXボタン

FXモジュールのオン/オフを切り替えます。

2 EFFECT TYPEボタン

タップすると、エフェクトを選択するEFFECT TYPE画面が表示されます。

3 タイプ/ライブラリー名表示

選択しているエフェクトのタイプとライブラリー名を表示します。

4 パラメータースライダー

それぞれのエフェクトで設定できるパラメーターがスライダーで表示されます。

5 Syncボタン

ディレイなど、テンポの設定ができるエフェクトのときに表示されます。

オンのときは同期するテンポを6 TAPボタンで設定できます。

6 TAPボタン

タップする周期でBPMを設定します。ディレイやコーラスなどのエフェクトで表示されます。

7 FXアウトプットレベルメーター

FXモジュールの出力レベルを表示します。

8 CUEボタン

タップして、FXのCUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

お知らせ

FX画面を開く直前の画面に戻るには、概要ストリップエリアの戻るボタンや、TOOLBARエリアのFX1/FX2 EDITボタンをタップします。

FX画面のメニュー

FX画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- Copy :
選択しているチャンネルのエフェクトのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- Paste :
コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- Compare :
選択しているエフェクトのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを切り替えて比較します。
- Default :
選択しているエフェクトのパラメーターを初期状態に設定します。

EFFECT TYPE画面

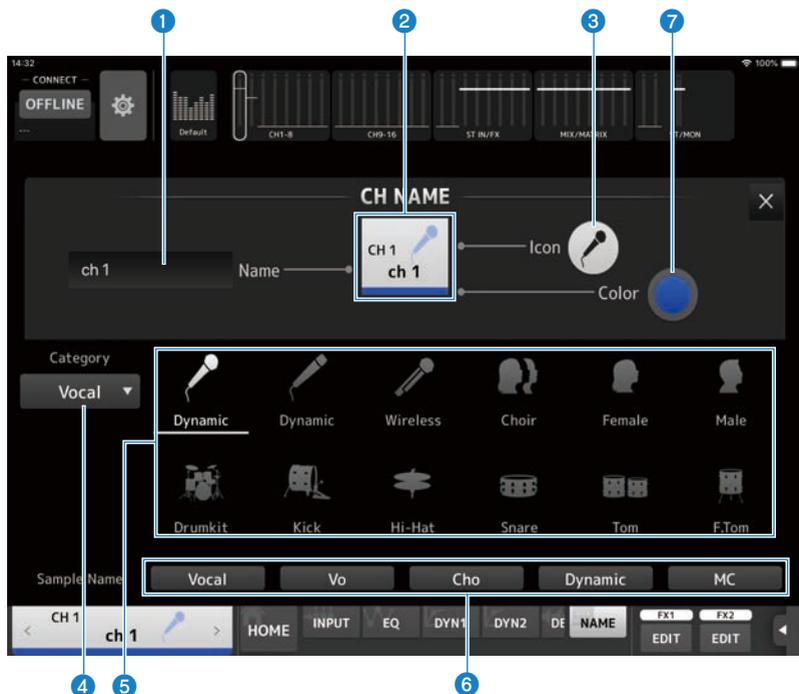
EFFECT TYPE画面では、エフェクトタイプを選択します。
目的のボタンをタッチして、選択します。



CH NAME画面

CH NAME画面では、チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。

TOOLBARエリアのNAMEボタンをタップすると表示されます。



1 Nameテキストボックス

チャンネル名を入力します。

テキストボックスをタップすると、キーボードで直接入力できます。8文字まで多言語で入力できます。

2 CH NAME表示

チャンネルのナンバー/ネーム/アイコン/カラーを表示します。この部分を左右にフリックすると、表示チャンネルが切り替わります。

3 Iconボタン

タップすると、チャンネルアイコンの一覧が画面下側に表示されます。

4 Categoryボタン

表示するチャンネルアイコンのカテゴリーを切り替えます。

チャンネルの種類によって表示されるカテゴリーが変わります。

5 チャンネルアイコン選択

アイコンをタップすると、チャンネルアイコンとして反映されます。
上下にドラッグすると、表示されていないアイコンが表示されます。

6 Sample Nameボタン

選択したチャンネルアイコンと一緒によく使われるチャンネル名の例を表示します。
チャンネル名の例が書かれたボタンをタップすると、チャンネル名として反映されます。

7 Colorボタン

タップすると、チャンネルカラーの一覧が画面下側に表示されます。



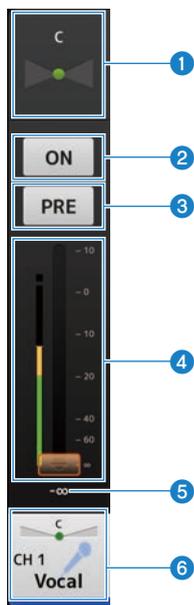
チャンネルカラーに設定したい色のボタンをタップすると、チャンネルカラーとして反映されます。

SENDS ON FADER画面

SENDS ON FADER画面は、フェーダーで各チャンネルのセンドレベルを調節します。



SENDS ON FADERモードのときは、詳細表示エリアの表示が変わります。
ただし、送り先がないチャンネルの表示は変わりません。



1 SEND PANスライダー

送り先として選択したチャンネルがステレオのときに表示されます。センドPANを調整します。送り先がFXバスの際は表示されません。

2 SEND ONボタン

送り先に選択したチャンネルへのSENDのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

3 PREボタン

送り先として選択したチャンネルに送る信号をフェーダーの前後のどちらに送るかを選択します。オンのときは点灯します。

- オン：
フェーダーの前
- オフ：
フェーダーの後

4 フェーダー

送り先に選択したチャンネルへのSENDレベルを調整します。

5 SENDレベル値

現在のSENDレベル値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。

6 CH NAME表示

チャンネルのナンバー/ネーム/アイコン/カラーを表示します。

お知らせ

SEND先のBus TypeがFIXEDの場合は、SEND PAN、PREボタン、フェーダーは表示されません。

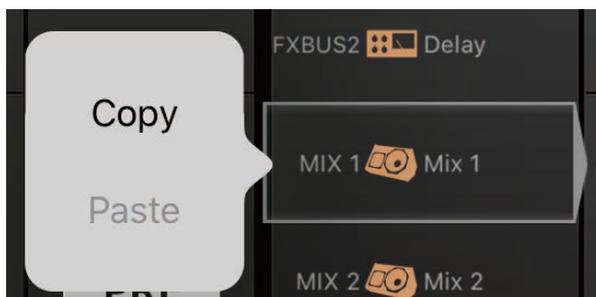
■送り先に選択しているチャンネルへのセンドレベルをコピーして他のチャンネルにペーストする

- 1 センドレベルをコピーしたい送り先のチャンネルをタップする
SENDS ON FADERモードに切り替わります。



2 センドレベルをコピーしたい送り先のチャンネルを長押しする

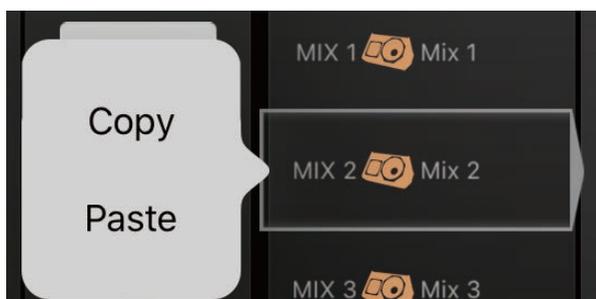
長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするためのポップアップメニューが表示されます。



3 「Copy」をタップする

4 コピー先のチャンネルを長押しする

長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするためのポップアップメニューが表示されます。



5 「Paste」をタップする

付録

パラメーター

USER DEFINED BUTTONSに割り当てできる機能

Function	Parameter1	Parameter2
No Assign	—	—
CH ON	Specific CH	All CH
CH SELECT	Inc	—
	Dec	—
	Specific CH	All CH
CUE	Specific CH	All CH
Effect	Bypass	FX1~2
Meter	Peak Hold ON	—
Monitor	Output	—
	Source Select	STEREO, USB 17/18, Playback, MIX1~6, MATRIX1~2
MUTE Group Control	GROUP1~6	—
Oscillator	Oscillator ON	—
	Specific CH	MIX1~6, STEREO L, STEREO R, MATRIX1~2, FX1~2, CH1~CH16, ST IN L,R, FX RTN 1L,1R,2L,2R
Page Change	Bookmark	—
	Bookmark with “SEL”	—
Recorder	Transport	Play/Pause, Stop, Next, Previous, Rec, Auto Rec, Rec & Start, FF, Rew
Scene	Inc	—
	Dec	—
	Store	—
	Recall	—
	Inc Recall	—
	Dec Recall	—
	Direct Recall/Store	A00~A99, B00~B99

お知らせ

Meter (Peak Hold ON)、Monitor、Oscillatorは、DM3シリーズの機能を操作します。これらの機能は、DM3 StageMixにはありません。

資料

困ったときは

WAP/ルーターのDHCPサーバーセットアップ

- 1 ウェブのブラウザを使って、WAP（ワイヤレスアクセスポイント）またはルーターのウェブ設定ページにアクセスします。
- 2 DHCPサーバーを有効にします。
- 3 DHCPサーバーがアサインできるIPアドレスの範囲を設定します。
- 4 コンソールのIPアドレスが範囲外であることを確認します。もし範囲内の場合は、IPアドレスを入れ替えてください。
(例: DM3シリーズのIPアドレスが192.168.1.2 のときには、DHCPの範囲を192.168.1.3 ~ 192.168.1.128などにする)

お知らせ

すべてのWAPがDHCPサーバーに対応しているわけではありません。この場合、固定IPアドレスを使って、iPadをセットアップしてください。

SELECT MIXER画面でDM3シリーズが検出されない場合

アクセスポイントでIGMPスヌーピングが有効になっていると機器を正しく検出できないことがあります。IGMPスヌーピングをオフにしてお試しください。

DM3 Editorと一緒にStageMixを使う

DM3 EditorをインストールしたコンピューターとDM3 StageMixをインストールしたiPadは、合計3台まで同時に使用できます。

ただし、DM3 Editorをインストールしたコンピューターはそのうち1台までです。

「インターネットへのリダイレクト」問題

iPadは、Wi-Fiネットワークの選択時にインターネットへのアクセスを試みる場合があるため、Wi-Fi機器（アクセスポイント/ルーター）の設定によっては、「インターネットに接続できない」というメッセージがiPad画面に現れて、DM3 StageMixがDM3シリーズに接続できない場合があります。DM3 StageMixとDM3シリーズとの接続にインターネット接続は不要ですので、Wi-Fi機器を適切に設定することにより、このメッセージが出ないようにする必要があります。Wi-Fi機器の設定変更の方法は、「リダイレクト機能」を無効にするなどがありますが、詳細はWi-Fi機器メーカーにお問い合わせください。

4本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

マルチタスク用ジェスチャがオンに設定されていると、StageMixで4本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。

DM3 StageMixを使用する場合は、マルチタスク用ジェスチャをオフに設定しておくことをおすすめします。

- 1 iPadで[設定]を押します。
- 2 [一般] > [マルチタスク用ジェスチャ] > [オフ]に設定します。

3本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

アクセシビリティ機能内のズーム機能がオンに設定されていると、StageMixで3本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。StageMixを使用する場合は、ズーム機能をオフに設定しておくことをおすすめします。

- 1 iPadで[設定]を押します。
- 2 [一般] > [アクセシビリティ] > [ズーム機能] > [オフ]に設定します。

RTAが表示されない場合

最初にEQ画面を開いたときに、iPadのマイクを使用しない設定をすると、それ以降はRTAが表示されなくなります。RTAを表示したい場合は、iOSのSettings → Privacy → Microphone画面で、StageMixをオンにしてください。

チャンネルネームに使用できる言語

下記の言語表示に対応しています。

- Arabic
- Bulgarian
- Chinese
- Chinese TW
- Croatian
- Czech
- Danish
- Dutch
- English
- French
- German
- Hindi
- Hungarian
- Indonesian
- Italian
- Japanese
- Korean
- Persian
- Polish
- Portuguese
- Romanian
- Russian
- Serbian
- Slovenian
- Spanish
- Swedish
- Tagalog
- Thai
- Turkish
- Vietnamese

ヤマハプロオーディオウェブサイト
<https://www.yamahaproaudio.com/>

ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>

© 2021 Yamaha Corporation

2024年4月発行 NV-B1